

はじめに

だれもが安心して暮らせる社会をめざして

～～創設90周年の節目に～～

だれもが安心して暮らせる社会を実現したい――。朝日新聞厚生文化事業団は2017年、こうした基本理念や運営方針を盛り込んだ「中期計画2020」をスタートさせました。

ここでは、地域福祉の発展につながる「地域づくり」、福祉を支える人材を育む「人づくり」、「支援の輪の拡大」という三つの軸を打ち出しました。17年度はこの方針にそって、前例踏襲でない新たな手法にチャレンジすることを旨に、様々な事業をすすめてまいりました。

「子どもの貧困問題」の解消に向けた事業としては、貧困問題に取り組む団体への資金助成から一歩進め、解決策を考える人材づくりをめざす全国セミナーを開きました。認知症カフェの関連事業でも、単に団体への助成規模を増やすということだけでなく、助成した団体が核となり、地域の力として活躍するための学習、情報交換の場を提供することに力を入れました。

震災復興事業でも、その方針を念頭に展開しました。東日本大震災の復興では、宮城県南三陸町の地域拠点づくりをお手伝いし、岩手県陸前高田市の「朝日のあたる家」でも引き続き、多くの地域の方々の交流の場となるべく尽力しました。熊本地震関連では、被災地で障害者支援、地域復興に取り組んでいる人たちの活動に着目し、助成を実施しました。

このほかにも多くの事業を実施してまいりました。この事業報告書から、私どもの福祉活動をより知っていただければ幸甚です。

18年は、事業団の創設90周年の節目の年にあたります。福祉を取り巻く環境は大きく変わってきています。常に「時代の先端にいること」を心にとめて活動の幅を広げるとともに、長年取り組んで評価が定着している事業はさらに発展させていきたいと考えています。

また、改正社会福祉法が17年に本格施行されました。ガバナンスや財務規律の向上にも取り組んでおります。しっかりした組織、体制をつくりながら、これからも力強く福祉事業を行ってまいります。職員全員、全力投球で取り組む所存です。温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2018年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目

次

はじめに	1
子どもの福祉	3
被災地支援	11
障害のある人の福祉	17
高齢者の福祉	25
福祉啓発・公衆衛生	39
チャリティー事業	43
主な後援・協賛・協力事業一覧	49
チャリティー美術展に出展いただいた皆さま	54
ご寄付をいただいた皆さま	62
中期計画2020	69
朝日福祉ガイド DVD・本のご案内	73
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	75
2017年度事業活動計算書(抜粋)	78
理事・監事・評議員名簿	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿	80

子どもの福祉

Change!
朝日こどもの未来
チェンジメーカー
養成講座

こどもの貧困

すでに子どもの支援に取り組んでいる方が、現在の支援を継続しながら、さらなるレベルアップを図っていただくための2泊3日の養成講座を実施します。3日間に行われるセミナーや研修を通して、子どもの幸せを願い各地で活動する参加者が「つながる」「共通を得る」「活動することへの喜びを深める機会」とします。見んづら、単独での解決が難しい子どもの貧困問題に対して、先進事例の講演や、協力者を巻き込むための学びを通して、それぞれの地域に活かした活動につなげられるよう1日講座します。

2017
11月3日④4日⑤日 幕張セミナーハウス
千葉市中央区新市浜2丁目3-2

定員：50人(研修場所は2人まで) 参加費：10,000円(研修会場にて)
研修費(研修費)は別途申し込みが必要となります。2泊3日の研修は、2泊3日の研修費がかかります。

主催/朝日新聞厚生文化事業団

一緒に考えよう!
ひとり親家庭の
子育てセミナー

「子どもへの関心や育む力がわからない」
「相談できる人がいない」……
日々の悩みやこれからのひとり親のあり方について
みんなで語り合いませんか?

高年、ひとり親家庭の支援や子どもの発達問題に取り組んできた
朝日新聞大学館の専任スタッフが、親と子どもの関わりについて講演します。
ひとり親の悩みの相談、相談が子育てで悩んでいる方について語り合う時間もあります。

プログラム

14:00~15:00	講演 ひとり親家庭の「子育て」と自分育て (講師)
15:00~15:20	講演 朝日新聞大学館 神原文子さん
15:20~15:30	ひとり親による体験談 (講師)
15:30~15:30	安本麻貴さん/佐藤麗香さん
15:30~16:00	休憩
15:30~16:00	参加者の集い (講師)
	お話を伺った感想、これからのご活躍の ありかについて語り合います。

2018年3月18日
14時~16時

ドーンセンター 5階大会議室2
(大阪府立英女共同研修・青少年センター)
〒540-0006 大阪市中央区大手前1-3-49

定員 30名 (研修申込みの制限あり)
対象者 母子・父子世帯の保護者、支援者

参加費 無料 (研修費は別)

※一時的な参加が必要となる場合はお申し込みをお断りいたします
其後参加費は別途3万円以上

主催/朝日新聞厚生文化事業団

CONTENTS

- 朝日こどもの未来 チェンジメーカー養成講座 4
- 児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金、
応援生のつどい 7
- 一緒に考えよう！ひとり親家庭の子育ちセミナー（大阪）..... 8
- 第64回朝日夏季保育大学（長野）..... 9
- 親子で楽しむクリスマスコンサート（東京） 10

朝日こどもの未来 チェンジメーカー養成講座

事業団主催

子どもの貧困問題に取り組んでいる人たちが、より良い支援を続けていくためには何をすればいいのか。先進的な活動をしてきたNPOや行政関係者を講師に学び考える2泊3日の講座を、11月3日から5日まで千葉県習志野市で開催しました。

最高齢は80歳、最年少は18歳。北海道から沖縄まで、子ども食堂や学習支援、居場所作りなどを行っている民間団体から、社会福祉協議会や行政の職員など、38団体の49人が集まりました。

●子どもの貧困対策に取り組む活動が「地域のインフラ」になるために

初日は社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんが、「子どもの貧困対策ネクストステージ」と題し基調講演。2013年に子どもの貧困対策法が成立してから、既に活動をしていたNPOなどだけでなく、地域のシニア、主婦、学生らもなんとか力になりたいと、各地でさまざまな活動が展開されてきました。湯浅さんは、活動を持続し次の一步を刻むには、地域と連携し、必要な社会資源として認めてもらうことが重要であると強調。地域の理解を得て連携を進めるためには、自分たちが「周囲にどう見えるか」を考え行動することが必要と、自らの経験を交えながら語りました。

その後、大阪市西成区で取り組みを続ける「こどもの里」を追った映画「さとにきたらええやん」を上映しました。その後湯浅さんと、貧困問題の取材を重ねている朝日新聞の山内深紗子記者が対談。途中からは会場からの質問に2人が答える形をとり、映画を見ての疑問や支援を続ける中で出てきた悩み、マスコミとのつきあい方など、質問が途絶えませんでした。夜は夕食を兼ねた懇親会で、互いに初対面ながら盛んに情報交換をしたり、会話が弾む姿が見られました。

講座2日目の午前中は湯浅誠さんの司会で、東京都足立区で子どもの貧困対策に関わっている2人を講師に、取り組みを聞きました。足立区子どもの貧困対策担当部長の秋生修一郎さんが、区内の子どもの置かれている現状や区の支援、行政とのつきあい方、NPOへの期待などを話しました。続いてNPO法人カタリバのアダチベースディレクターの堀井勇太さんが、同区に運営委託されている中学生の居場所と学習サポート拠点「アダチベース」の活動内容を紹介しました。後半は、行政との連携の進め方など会場から寄せられた質問に2人が答えました。



●「つながる」「共感を得る」「協働する」活動へ

2日目の午後は、Publico代表取締役CEOの長浜洋二さんが「“共感・協力”を得るために～社会を変えるための設計図を描く～」の題で講義。長浜さんはビジョン（目指すもの）とミッション（ビジョン実現のための役割）を明確にし、効果的に相手に伝えなければ共感や協力

は得られないと指摘しました。講義の後、参加者それぞれが模造紙と付箋を使い、自分たちの取り組みを発展させるための「ロジックモデル」作成のワークショップを行いました。

続いて、日本ボランティアコーディネーター協会副代表理事の早瀬昇さんの講義「“参加”が高める組織の底力～参加型運営の可能性」。ボランティアがNPOに参加する意味や、参加しやすく満足感を持って活動を続けてもらえる組織運営のあり方や、安定的に寄付収入を得るための様々な手法を学びました。

最終日は、引き続き早瀬昇さんを講師に、9つのグループに分かれ、問題解決のためのワークショップに取り組みました。グループ内で「子どもの幸せ」をキーワードに意見交換し、それぞれが活動の中で問題と感じていることやその背景、ボランティアとともに解決・改善したいことなどを出しあいました。その上で、問題解決のためのプログラムを考え、発表。早瀬さんの「寄付集めの教え」を早速盛り込んだ資金調達やボランティア集めのためのイベントなど、すぐにでも実行できそうなアイデアが次々と出されました。



●子どもを真ん中に置いた、それぞれの一步

最後は「子どもの貧困対策センター 公益財団法人あすのば」の小河光治さんの司会で、講座を通しての気づきや学び、理解を深めたかったことをまとめました。終了前に1人1人が皆の前で今後への決意を述べ、3日間の日程を終えました。

参加者からは「『なんとなく延々と良さげなことをし続ける日々におさらば!』できるだろうか。自分たちの活動を分析し、俯瞰することをすべき時期だと思いました」「みなさんのパワーをいただき、今よりちょっと上を目指してがんばります」「(参加者の)いろいろな決意が、私にとって大きな励ましとなった。また、いろいろなカタチの貧困対策が連動して『なんとか』『少しでも』前進するのではないかと思った」などの感想が寄せられました。

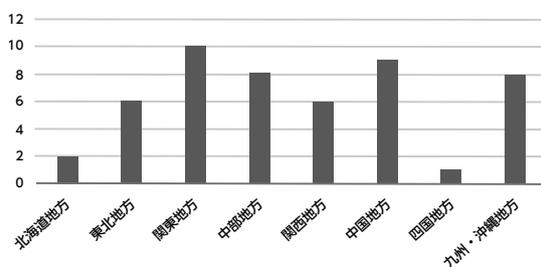
今回の講座で得た気づきや全国の仲間たちとの新たなつながりが、子どもの幸せを願う活動を前に進める力になれば幸いです。当事業団では、引き続き、子どもの貧困対策への取り組みを進めていきたいと思ひます。



今回ご参加いただいたのは、次の団体の皆さんです。

北海道	無料学習支援とご飯と遊びの場「おむすびころりん」
岩手	インクルいわて
宮城	せんだいこども食堂
山形	フードバンク山形
福島	ビーンズふくしま
埼玉	ふじみの国際交流センター、Mooie Kenken（てらこや食堂）
千葉	浦安こども食堂コミュニティ、コラボライフ
東京	こどもの居場所作り@府中、ユースコミュニティ、野の暮らし、女性ネットS a y a - S a y a
神奈川	なんとかなる
新潟	フードバンクにいがた
山梨	b o n d p l a c e
静岡	サステナブルネット
愛知	小幡緑地冒険遊び場の会
三重	こどもとともに育つ学びの会
大阪	i m a c o、みんなでつくる学校とれぶりんか
兵庫	ウエイズ・ジャパン
奈良	C o d o m o 食堂かんまき・地域防衛軍C O K A
鳥取	かめの泉
岡山	子どもの家運営委員会、高梁市役所、子育て応援ナビぽっかぽか
山口	周南市役所、山口せわやきネットワーク（こども明日花プロジェクト）、ライフワーク支援機構、母子生活支援施設 沙羅の木
高知	高知あいあいネット・フードバンク高知 いこいの場「あいあい」
福岡	うきは市社会福祉協議会、STOP！子どもの食と心の貧困 ボナペティ、エデュケーションキューブ
熊本	ハンズハンズ
鹿児島	森の玉里こども食堂
沖縄	ほのぼのプロジェクト

参加者の地域分布



主な活動領域

居場所作り	学習支援
子ども食堂	虐待防止
母子・父子家庭支援	外国籍の子ども支援
社会福祉協議会	地域活性化
子ども・子育て支援	児童館、保育園等
被災地支援	母子生活支援施設
フードバンク	就労支援

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金、応援生のつどい

事業団主催 原田積善会協賛

児童養護施設や里親家庭などの社会的養護で暮らし、将来に向けて大学や専門学校に進学する高校生に対して応援金を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」は、今年で10回目となりました。この事業は多くの方々から寄せられたご寄付と山岡子ども応援資金や原田積善会などの皆様の善意に支えられて実施しています。おかげさまで2016年度から贈呈額と贈呈する人員を増やすことができました。

入学金(実費)に加え「学生応援金」として年間60万円(最大360万円)を卒業するまで贈るもので、本内容での事業実施は2年目を迎えました。

18年3月23日、24日には、「進学応援生のつどい」を都内で開催し、17年度の内定者45人のうち、辞退者等14人を除く31人が全国各地から参加しました。また、16年度の応援生13人も学業の合間を見て参加し、1年ぶりにその元気な姿を見せてくれました。

23日は東京都文京区の「東京大学伊藤国際学術研究センター」にて、参加者全員で学ぶ時間を持ちました。社会的養護出身の元高萩市長、そして現在は東北福祉大学特任教授など様々な分野でご活躍されている草間吉夫さんを招き、貴重なお話をうかがいました。草間さんは「これから大人になっていく皆さんに伝えたいこと」というテーマで、参加者からの質問に対しての答えながら、「そのとき、そのときにある目標を達成すること、それを積み重ねていくことで、思いは実現していくものであり、振り返ったときに、それが自分の自信にも繋がっていく」と話し、参加者全員の今後の活躍を願いました。その後、「大人になるってどんなこと?」というテーマで、グループワークを行いました。これからの新生活を迎えることについての期待や不安なども交えながら参加者同士で語り合い、そして共有を図りました。



その後は、近くのホテルへ移動し、夕食を囲みながら、参加者同士和気藹々と交流を深めました。

24日は、バスで千葉県浦安市の東京ディズニーランドに移動して、パーク内の観光を行いました。春休みの土曜日ということもあり、混雑する場面もありましたが、さらに仲間たちとの交流を深めることができました。

当事業団の進学応援金は、入学から卒業するまで対象者に応援金を贈ることから、在学中も連絡を皆さんと取り合っていきます。そして、いつでも応援生のサポートができるような体制づくりを進めていくことはもちろん、全国各地において、応援生が気軽に集い、悩みを共有し合ったり、語り合うことができる場所をつくっていきたいと考えております。

一緒に考えよう！ひとり親家庭の子育ちセミナー（大阪）

事業団主催

「子どもへの接し方や育て方がわからない」「相談できる人がいない」など、悩みを抱えるひとり親が集い、子育てなどについて考えるセミナーを、2018年3月18日、大阪市中央区のドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）で開催しました。18人の参加者が、子育てやひとり親のあり方について学び、語り合いました。

はじめに、長年、「ひとり親家族」の支援や子どもの人権問題に取り組んできた神戸学院大学教授の神原文子さんが、「ひとり親家庭の『子育て』と自分育て」を講演しました。ひとり親家庭の現状や関連する施策の問題点を挙げ、ひとり親の生きづらさの原因について話しました。また、離婚を肯定的にとらえることと再出発することのメリットについて話し、「がんばり過ぎないで」「いつでも力になるよ」と話しました。



また、子どもの貧困にもふれ、ひとり親の子どもが生活に困らないために必要な条件について話しました。次に、「体罰に頼らない子育て」をテーマに、体罰が脳に与える影響を説明し、子どもの心と体を大切に思うことが必要だと話しました。

ひとり親の体験談として、安木麻貴さん、松尾徳恵さんが登壇。安木さんは、神戸市内で高校生の息子と2人で暮らす40代の女性で、NPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西」の理事も務めます。離別シングルとなったのを機に専業主婦から介護職として働き始めました。「離婚してから、つらい時期もあったが、ある時に、考え方を転換させた」「自分のための時間をつくること、人とつながることが大事だ」と話しました。

松尾徳恵さんは大阪府内に住む中学生と小学生の2人の子供を持つ40代のシングルマザーで、同団体のスタッフです。「子どもは、伴走をしてくれる大人がいれば、安心して学校にも通えるし、成長もできる」「子どもが人生の主人公なので、子どもに考えさせることが大切」と話しました。

セミナーの最後は、参加者が3グループに分かれ、それぞれの状況や子育てについて語り合いました。グループごとに発表では、「いつまで養育費が続くか心配」「仕事と家庭だけで、他のつながりが見つからない」「離婚調停中で悩んでいる」という発言が聞かれました。

参加者のアンケートには、「多くの『プラス』の言葉や考え方の転換を聞いて、自分もプラスに転じてみようと思った」「娘が離婚して家に戻ってきたので、色々とためになる話ばかりでした」などの感想がありました。

第64回朝日夏季保育大学(長野)

事業団主催 諏訪市共催
長野県、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援 大同生命厚生事業団協賛

64回目の朝日夏季保育大学を7月21、22日に長野県の諏訪市文化センターで開催し、保育士をはじめ、幼稚園の先生らのべ約1200人が参加しました。

17年度の保育大学では、貧困など子どもを取り巻く環境に着目しながら、「子どもの自己肯定感」を大きなテーマにおき、このような状況の中で、子どもの心をどのように育てていけるのか、「大切にされるという経験」をどのようにつくっていけるのかを探りました。

オープニングは、詩人の谷川俊太郎さん、詩人、シンガーソングライターの覚和歌子さんに飾っていただきました。お二人の詩の中で関連性のあるものをそれぞれペアにした「ペアポエム」の朗読などが披露され、「ことば」のおもしろさや「ことば」を紡ぎながら思いを表現する素晴らしさを存分に体感できたステージとなりました。



その後、京都大学名誉教授の鯨岡峻さんが「子どもの心を育てる保育のために～保育のエピソードを通して考える～」をテーマに講演。子どもの信頼感と自己肯定感の育ちには「養護の働き」が欠かせないことを強調。さらに、育てる営みの中の「教育の働き」も大切であり、その微妙な兼ね合いの中から子どもは育てられて育つのだと説きました。

1日目の最後は、白梅学園大学学長、東京大学名誉教授の汐見稔幸さんによる講座。10年ぶりに改定された「保育所保育指針」の18年度の施行に向け、保育の現場に直結する事柄を中心に汐見さんが分かりやすく解説したあと、会場の参加者が少人数のグループに分かれ、汐見さんから示された課題について議論し、具体的に現場でどのように実践するのか考察しました。

2日目の最初は、川崎西部地域療育センター通園課園長であり、臨床心理士の幸田栄さんが「子どもが安心して生活するために～発達気になる子どもたちの理解と支援～」と題して講演。集団の中で気になる子・配慮を必要とする子どもをはじめ、すべての子どもが安心して生活するために保育園などでできる工夫や保護者との協力関係について、具体的に説明しました。

続いて名古屋市熱田福祉会けやきの木保育園園長の平松知子さんによる講演「保育でしあわせになる～こんな時代に求められる保育と福祉～」。格差や貧困などで、自分らしく生きることが難しい現代社会では「乳児期に、ゆたかな環境を保障されてこなかった子どもたちの当たり前の育ちの権利を取り戻す保育が求められている」、保育実践は「個人の尊厳を守り抜く実践。大切にされた子どもは、やがて人を大切にできる大人になる」と、保育の意義や役割を訴えました。

午後は、絵本作家でアーティストの田島征三さんによる「子どもに学ぶ保育講座」。これは「明日の保育に活かせる質の高い実技」をテーマに、子どもとの関わりを実践から学ぶ講座です。会場内の講義だけでなく、実際に講師が保育園を訪問し、子どもと接する様子を撮影。保育大学当日にそのVTRを上映しました。今回田島さんには6月に新潟県十日町市の2か所の保育園で、木の実を使ったワークショップを開催していただきました。講義冒頭でその時の様子を上映。子

どもの自由な創造力を引き出していくポイントを考えました。その後田島さんが登場し、これからの時代を生きる子どもたちへメッセージを送りました。

最後の講座は、法政大学教授で社会活動家の湯浅誠さん。「子どもの貧困問題と私たちにできること」という演題で、様々な場面において「溜(た)め」がなくなりつつある我が国において、その子どもを取り巻く貧困の実態や、子どもと関わる人たちが持つべき視点などについて話しました。

テーマと講師、スケジュールは次の通り。

7月21日(金)		7月22日(土)	
10:10 10:30	開校式	9:00 10:30	「子どもが安心して生活するために」 ～発達の気になる子どもたちの理解と支援～ ◆幸田 栄／川崎西部地域療育センター通園課園長、臨床心理士
10:30 12:00	「ことばはからだぐるみ」 ◆谷川 俊太郎／詩人 覚 和歌子／詩人、シンガーソングライター	10:45 12:15	「保育でしあわせになる」 ～こんな時代に求められる保育と福祉～ ◆平松 知子／名古屋市熱田福祉社会けやきの木保育園園長
	昼食休憩		昼食休憩
13:00 14:30	「子どもの心を育てる保育のために」 ～保育のエピソードを通して考える～ ◆鯨岡 峻／京大名誉教授	13:00 15:00	【子どもに学ぶ保育講座】 「子どもたちに伝えたいこと」 ◆田島 征三／絵本作家、アーティスト
14:45 16:45	「子どもとともにある保育」～新指針、新要領を受け止めて～ ◆汐見 稔幸／白梅学園大学学長、東京大学名誉教授	15:15 16:45	「子どもの貧困問題と私たちにできること」 ◆湯浅 誠／法政大学教授、社会活動家

親子で楽しむクリスマスコンサート(東京)

事業団主催

18回目となる「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、有楽町朝日ホールで開催しました。17年のコンサートは「世界中のこどもたちが」「ともだちになるために」などの名曲を作った中川ひろたかさん(シンガーソングライター)と新沢としひこさん(シンガーソングライター)の“ゴールデンコンビ”が出演。会場には、約600人の家族連れらが集まり、クリスマスのひとときを楽しみました。

中川さんと新沢さんによる歌「世界中のこどもたちが」で幕を開け、会場は一気に盛り上がりました。クリスマスにまつわる歌や中川さんによる絵本の朗読、新沢さんによる体操などもあり、子どもたちも一緒に参加できる盛りだくさんの内容でした。アンコールを含め、20種類の遊びや歌などが披露され、大盛況のうちに幕を閉じました。

朝日のあたる家(岩手)

事業団、NPO法人福祉フォーラム・東北主催

朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、2013年2月に誰でも気軽に立ち寄り、情報交換をしたり地域に根ざしたイベントを開催する場として岩手県陸前高田市米崎町に開設されました。開設からこれまで一貫してNPO法人「福祉フォーラム・東北」の方々と共に歩みを進めてまいりました。

朝日のあたる家では、「福祉フォーラム・東北」のスタッフが常駐し、運営しています。木造平屋建て床面積約240平方メートルの建物には、大小4つのホールや和室、キッチンがあり、グランドピアノやプロジェクター、音響設備なども備えています。

●5周年記念式典

朝日のあたる家は17年度に開設5周年を迎えました。18年2月10日、11日と2日間にわたって開催された記念式典には、ご多忙の中、来賓の方々や地域のご利用者の皆様など、大勢の方々にご参加いただきました。

当日は地域の皆様の民謡や踊りなどの発表、今までの歩みを振り返るスライドショーの上映、手作りの料理などで賑やかに、盛大に、5周年をお祝いすることができました。



●実施している活動

現在、朝日のあたる家では、数々のプログラムを開催し、地域の皆様の生活をサポートし、応援しております。

認知症の方やそのご家族、地域の方に自由にご参加いただき、認知症の方が住み慣れた地域での暮らしを継続できるよう願う「アップルカフェ(認知症カフェ)」、食べる・作る・会う・参加するすべての楽しみを味わいながら元気を持続していくこと願う「みんなでごはん」、身体の維持だけでなく、心の豊かさを作り上げる「いきいき百歳体操」、15年5月に敷地内の小高い丘に作られ、憩いの場として多くの子どもたちにご利用いただき楽しんでいただく「虹の架け橋」、さらに、17年度より高齢者の心身の健康の維持や予防のために運動やレクリエーションを提供する陸前高田市通所型サービスB事業「生き生き朝日」も開始しました。

朝日のあたる家の活動は「震災復興から生活の中へ」を目標に、地域にお住まいの方々の日々の生活をいかに支援するかを考え活動を行っています。

生活環境の変化の中で、地域での新しいつながりと今までの関係性を深めるべく、様々な活動を行い、陸前高田市の街づくりの中で、求められる役割を果たしていきたいと考えます。

5周年を迎え、復興への取り組みは進んでおり、にぎやかな街づくりが展開されています。地域の課題を分析し、解決すべき方法に対しての取り組みを進め、継続的かつ安定的な活動を目指して活動をしていきます。

グリーンサポート（宮城）

事業団主催 キッズハートゥーハワイ、東松島子どもグリーンサポート協力

東日本大震災以降、朝日新聞厚生文化事業団は、津波と地震を経験した子ども、身近な人をなくした子どもたちを対象に、様々な団体と協力しグリーンサポートプログラムを実施してきました。これまでも年間を通して東松島市を中心に事業を実施してまいりましたが、震災後6年を迎えた今年度は、被災地域の生活環境や地元からのニーズの変化に合わせ、これまでの蓄積をもとに、地域での新たな事業展開をめざすことになりました。

●地震と津波を体験した子どもと大切な人を亡くした子どもの「あそびのいえ」

「あそびのいえ」は、子どもたちが安心と希望を持って暮らすために、あそびを通して自分自身のさまざまな感情を受け入れ、自分なりに整理していくプロセスをともに歩むグリーンサポートのプログラムです。

この活動をさらに進めるために、17年7月にキッズ・ハート・トゥー・ハワイのシンシア・ホワイトさんを米国から講師として招き、ファシリテーター養成講座を実施しました。

会場となった野蒜市民センターには、東松島市、石巻市の居住者を中心に12名が参加し、2日間に渡って白熱した講座が展開されました。

また、年度内のグリーン活動「あそびのいえ」は、東松島子どもグリーンサポート（後述）と共催という形をとり、17年11月と18年1月（いずれも野蒜市民センター）に於いて、地元のメンバーを中心に運営・実施することができました。



●東松島子どもグリーンサポートの設立と運営支援

7月のファシリテーター養成講座に参加したメンバーと、これまで事業団が実施してきた東松島でのグリーン活動に主体的に協力してきたメンバーが中心となり、10月に任意団体「東松島子どもグリーンサポート」（代表・菅原節郎さん）が設立されました。この団体が、事業団が続けてきたグリーンサポート事業の後継を担います。

このことにより、地域密着型のサポートが実現し、地元の需要に即した地域活動が可能になりました。震災後の時間の経過とともに新たに生まれた課題についても、早い段階で解決できる体制が整いました。

事業団としても今後はさらに、地域の理解と協力を得ながら、地域の方々の手で中長期的に事業が展開できるように体制の充実を図ります。グリーン活動とその普及活動を通して、子どもたちと保護者の方々と思いを共有し、課題解決に向けて活動できる場を実現できるよう進めてまいります。

復興支援プロジェクト（福島）

事業団主催 ジャパンアーツ協力

東日本大震災以降に、不自由で不安な生活を強いられている方々が少しでも心豊かなひとときを過ごせるようにとスタートした「被災地ビジット」。本年度は震災後6年を迎え、少しずつ進む復興を活気づけるための事業「復興支援プロジェクト」と名称を変更して、被災地をさらに支援するべく装いを新たにしました。

●身近な施設で楽しむ機会を

福島県浜通りは、福島第一原子力発電所の事故の影響で震災以降も一部で瓦礫の撤去もままならない状況が続き、生活インフラの整備のために大型の工事車両が現在もなお行き来するなど、地震直後と変わらない状態が続いています。

福島県内での復興支援のイベントは時期を経て開催数が増えてきていますが、たとえば、いわき市で東日本大震災の被害が大きかった場所はコンサートホールがある市の中心部ではなく、沿岸の小さな港町や集落などになります。この地域から近隣の高台に設置された仮設住宅に避難している人たちにとっては、市街地で大きな復興支援のイベントが開催されても、交通手段や自身の体力の問題で街に出向いて楽しむことが難しいのが現状です。

「もっと親しみやすく身近に実施される支援コンサートを開いてほしい」という地域のニーズにこたえて実施したのが、今回の「復興支援プロジェクト」です。開催場所も、地区の集会場や地元の小中学校の体育館といった日頃地域の人たちが活用し、親しんでいる施設を選びました。また演奏当日は、演奏するアーティストとの距離や会場の雰囲気大切に、親近感を持って演奏を楽しんでもらえるよう、できる限り「小さなコンサート」となるように配慮しました。

●千住真理子さん、丸山滋さんによるリサイタル

18年度は世界で活躍する人気バイオリニストの千住真理子さんとピアニストの丸山滋さん、お二人の協力をいただき、9月8日～9日にかけて福島県三春町・いわき市・双葉郡を訪問しました。

現在福島県三春町に移転を余儀なくされている富岡町立幼稚園小中学校三春仮設校舎（富岡町は福島第一原子力発電所からの距離約10km）を皮切りに、広野町立広野小中学校、楢葉町立楢葉小中学校や楢葉町コミュニティセンター、津波の被害を受けたいわき市久之浜町、平薄磯地区など福島県内6カ所で、復興支援の演奏を行いました。

8日に演奏があった楢葉町立楢葉小中学校（全校生徒110人。18年度4月から震災後初めて本校舎で授業を再開。）で千住さんはバッハ「G線上のアリア」や「もみじ」など、7曲を演奏しました。同校に通う中学3年生の男子生徒は「バイオリンの生演奏を聴くことはめったにない機会。千住さんが耳にしたことのある曲を演奏してくれて、音楽を身近に感じることができました」と話していました。



南三陸復興支援(宮城)

事業団主催

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町に「復興助成金」として支援を行っています。2018年4月に開所した高齢者支援施設「結の里」建設にあたって、隣接する志津川東地区復興住宅との間をつなぐウッドデッキの一部と、「結の里」内に設置されるカフェのダイニングテーブルなどの備品を支援いたしました。今後はこのカフェやウッドデッキを利用して、人が集まるイベントを企画することです。事業団は今後も南三陸エリアの地域コミュニティの形成にむけて支援を行ってまいります。

子ども応援金

事業団主催

震災で両親を亡くした子ども(孤児)に「東日本大震災子ども応援金」を届けています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接渡しています。

11年7月から贈呈を始め、18年3月末までに対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。

東日本大震災へのご寄付、17年度は760万円

朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業へ17年度に寄せられたご寄付は、767万8278円に上りました。

東日本大震災救援募金(震災直後から12年3月末まで実施)も含めたご寄付の累計は、18年3月末で約9万件、総額37億3197万2256円となりました。

年度別では、10年度が17億1703万9856円、11年度が17億9627万3050円、12年度が1億1362万4052円、13年度が4572万1384円、14年度が2359万9869円、15年度が1847万7091円、16年度が955万8676円でした。

熊本地震被災障害者への支援(熊本)

事業団主催

2016年4月に発生した熊本地震は、現地に甚大な被害をもたらし、現在もなお被害の爪痕を残しています。

特に障害を持つ方々への支援は、十分に行き届かない場面が多く見られています。

当事業団は、17年度事業として、発生直後から障害者を支援するために結成され、活動を続ける「被災地障害者センターくまもと」に活動をより発展、継続して展開していただくために、活動用資材の保管倉庫、活動用テントを寄贈し、9月14日に贈呈式を行いました。

贈呈式では当事業団の是永一好事務局長より、被災地障害者センターくまもとの倉田哲也代表へ目録が渡され、倉田哲也代表が「支援に感謝します。障害者の方々のための活動をさらに進めてまいります」と今後に向けての抱負を述べました。

当事業団では、今後もいつ起こるか分からない“災害”に対して、迅速かつ効果的な支援を被災地にお届けできるよう取り組みを進めてまいります。



九州豪雨支援(福岡)

事業団主催

2017年7月に起きた九州豪雨災害は、現地で甚大な被害をもたらしました。支援活動にあたるボランティアの方々も多数全国各地から現地に訪れ、活動をされました。

朝日新聞社と当事業団は、被災者への救援金を募り、集まった3175万1017円を日本赤十字社に寄託しました。また現地での支援活動において、何かお役に立てることがないかを考え現地取材などを行いました。そこで、17年9月に被害の大きかった福岡県朝倉市で支援活動をする「朝倉市災害ボランティアセンター」へ、土砂撤去作業などの支援活動に使用する「土のう袋」2000枚を寄贈しました。



今後も現地のニーズを踏まえながら、迅速な災害支援活動を行ってまいりたいと思います。

障害のある人の福祉



「私のチャレンジ」「手話で広がる輪」



手話の普及とボランティア活動推進のために
全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
 開催 2017年8月26日(土)12時30分～16時
 会場 有楽町朝日ホール(有楽町マリオン1F)
 TEL 03-5540-7446 FAX 03-5565-1643
<http://www.asahi-welfare.or.jp/>



高次脳機能障害講演会
 退院後、状況に合わせて考えておくべきこと
 2017年10月1日(日)午後1時～4時
 東京・京楽堂朝日ホール 大阪・京楽堂ホール



参加無料！ 出入自由
ポッチャ体験 & 福祉相談会

3月18日(日)13時～16時
 会場 月島区民センター1階会議室 20F

C O N T E N T S

第34回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京) 18

視覚障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京) 19

自閉症カンファレンスNIPPON 2017(東京)…… 20

高次脳機能障害講演会
 「退院後、状況に合わせて考えておくべきこと」(東京・大阪) 21

ポッチャ体験&福祉相談会(東京都中央区)…………… 22

第38回障害者歩くスキーの集い(北海道)…………… 22

第38回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(福岡) …… 23

第29回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(長崎) …… 23

「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)…… 24

第36回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡) …………… 24

第34回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

全日本ろうあ連盟、朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社主催
厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援
東京都聴覚障害者連盟協力、NEC協賛

1984年から手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。34回目となった今回は、8月26日に東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。全国の応募者84人から原稿と映像の審査で選ばれた高校生10人が「私のチャレンジ」「手話で広がる輪」のいずれかからテーマを選び、約500人の来場者の前で、手話と音声と同時に使ったスピーチを披露。日ごろの練習の成果を競いました。

第1位には北海道・石狩翔陽高校3年、長谷川幹奈さん＝写真上＝が輝きました。長谷川さんは「聞こえない私の現在・過去・未来」と題して、生まれつき聴覚に障害のある自身の体験や思いをスピーチしました。「今後は、聞こえない私が当事者として社会に目を向け、ろうあ運動に貢献していきたい」と、自分の思いを力強く述べました。

2位には神奈川県立高浜高校3年の山田楓恋さん＝写真中＝が選ばれ、「壁をなくす」という演題で、健聴者が手話への理解を深め、コミュニケーションの輪へ歩みを進めるよう訴えました。3位の福島県立ふたば未来学園高校2年、青木凜華さん＝写真下＝は「手話で広がる輪」と題して、聴覚支援学校に通う女の子と手話で交流を育んだ体験などを披露し、「手話は人と人との輪を広げる素晴らしいものだ」と確信していると語りかけました。

入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈られました。また、参加者全員にNECからコンテストの録画DVDが贈られました。

34回目となった今回は秋篠宮家の長女眞子さまが出席。開会式では全てのスピーチを手話を交えて行い、「発表されるみなさまが、ご自分の気持ちを豊かな手話で表現なさるのを楽しみにしております」と出場者にエールを送りました。

特別プログラムでは、5人組ボーカル&手話パフォーマンスグループのHANDS I G N（ハンドサイン）の皆さんが「エンターテイメントからもっと手話を身近なものに」をテーマに、パフォーマンスを披露。途中、観客も歌詞に合わせて手話をするなど、会場参加型で盛り上がりました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、田仲教泰・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、石橋大吾・全日本ろうあ連盟理事、服部



芳明・全日本ろうあ連盟理事、各務滋・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。

出場者は次の通りです。(敬称略)

順位	氏名	学校名	タイトル
1位	長谷川 幹奈	北海道・石狩翔陽高校3年	聞こえない私の現在・過去・未来
2位	山田 楓恋	神奈川県立高浜高校3年	「壁をなくす」
3位	青木 凜華	福島県立ふたば未来学園高校2年	手話で広がる輪
奨励賞	佐藤 愛理	東京都立大泉桜高等学校3年	未来への一歩
奨励賞	長谷川 未実	岐阜県立長良高等学校1年	男の子がくれた私の未来図
	古長 叶多	大分・東明高校3年	神楽でチャレンジ
	小桧山 有実	神奈川県立横浜南陵高校2年	私の夢
	知念 明華	沖縄県立陽明高校3年	一生懸命はかっこいい
	森 汐音	愛媛県立三崎高校2年	You can do it.
	渡部 恭子	クラーク記念国際高校 仙台キャンパス3年	日常

視覚障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

事業団、聖明福祉協会主催

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」の第49期貸与式が7月1日、東京都内のホテルで行われました。奨学生に選ばれたのは、執印優莉亜さん(文京学院大学)、芦久保慧哉さん(立正大学)、前田咲綺さん(東洋大学)の3人です。

式典では、聖明福祉協会の本間昭雄理事長が「全国からの多くの方の善意によってこの奨学金が成り立っている。奨学生に選ばれたみなさんには、各方面で活躍する先輩方の姿を見ながら、夢と希望を持ち頑張ってほしい」と祝辞を送りました。朝日新聞厚生文化事業団の是永一好事務局長が審査結果を報告した後、厚生労働省の吉田

正則自立支援振興室長が「しっかり勉学に励み、自分の掲げた目標を実現してほしい」とお祝いの言葉を贈りました。

この奨学金は、視覚障害の学生を対象として1969年に日本で初めて設けられ、今年度で貸与者の総数は210人になりました。



自閉症カンファレンスNIPPON 2017 (東京)

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、事業団主催
厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、日本知的障害者福祉協会後援

自閉症(ASD)の人たちへの支援の会議として国内最大級の「自閉症カンファレンスNIPPON 2017」を8月26日・27日、東京都新宿区の早稲田大学で開催。全国から福祉・教育・医療関係者、家族ら約1000人が参加しました。今回は16回目。



当事業団は、米国ノースカロライナ大学で開発された包括的な自閉症支援のシステム「TEACCHプログラム」による5日間にわたるトレーニングセミナーを1989年に日本で初めて開催したのを皮切りに、数々の自閉症支援に関する事業を展開してきました。自閉症の人たちへの支援が世界中で混とんとした状況にあった当時、同プログラムは社会的支援のモデルとして成果をあげていました。以来、講演会やセミナーの開催をはじめ、ガイドブックやDVD(ビデオ)の制作と普及、人材育成のための研修留学生の派遣などを通して、同プログラムの普及のためにさまざまな事業を実施。その成果として、現在の日本の学校教育や家庭、福祉現場ほかでの自閉症の人への支援が進歩を遂げたと言われ、高い評価を得ています。

これらの事業は、TEACCHプログラムを日本に初めて紹介した故佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授のご尽力と、当事業団への長年にわたるご協力によって推進されてきたものです。

その佐々木正美教授を中心に、日本国内で活躍する専門家や実践家が集まりスタートさせた実践研修の場がこの「自閉症カンファレンスNIPPON」。今回は、米国ノースカロライナ大学のTEACCH自閉症プログラム(旧TEACCH部)からローレン・ターナー・ブラウン/アシスタントディレクターと、英国自閉症協会からジャッキー・アシュトン・スミス/ディレクターが来日。TEACCHの幼児期からの家庭支援や最新情報、また英国の自閉症に特化した教育システムや高機能・アスペルガーの子どもへの同国の教育について紹介していただきました。

このほか、3つのテーマ別に合計12の日本国内の実践報告を聞く分科会や、各地での実践活動を自主参加で報告し、参加者との交流を広げるポスターセッション、初心者向けの入門解説講座、特別講座の「コミュニケーションセミナー」、それに当事業団制作のDVD「自閉症の人が求める支援」の上映など、今年も盛りだくさんのプログラムが行われた2日間でした。

2002年から開催し、夏のカンファレンスとして定着した「自閉症カンファレンスNIPPON」。今回の開催に先立つ6月末、当カンファレンスの実行委員長のみならず日本の自閉症支援の中心的な存在である佐々木正美先生がお亡くなりになりました。本会では生前の功績を称えるとともに、そのあたたかなお人柄を偲んでセレモニープログラムを行いました。

また当初来日予定のノースカロライナ大学ゲーリー・メジボフ教授が、自身の体調の都合で急遽来日できなくなり、プログラムを一部変更しました。例年カンファレンス後に開催し、17年度も新潟、熊本、岡山で予定し準備していた同教授による講演会は中止(延期)としました。

高次脳機能障害講演会 「退院後、状況に合わせて考えておくべきこと」(東京・大阪)

事業団主催 日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団ほか後援

高次脳機能障害当事者の状況に合わせて、周囲がいかに関生活や職場環境を整えていけばよいのかを考える講演会を大阪と東京で開催しました。大阪では9月3日、大阪市西区の大阪YMCA会館で150人、東京では10月1日、中央区の浜離宮朝日小ホールで140人が参加して行われました。

●大阪

まず、横浜市総合リハビリテーションセンターの臨床心理士・山口加代子さんが「当事者、家族によりそう支援」と題し、受傷、発症後、高次脳機能障害当事者の二次症状として、不安、抑うつ、他者への不信、絶望感、社会的ひきこもりなどが表れ、当事者のそういった側面のケアとともに、相当なストレスがかかる家族の心理的サポートの必要性を説きました。



次に高次脳機能障害当事者の竹井雄喜さんと母の喜美恵さん、橋本圭司・はしもとクリニック経堂院長が鼎談しました。休憩後、橋本さんを司会に、NPO法人高次脳機能障害サポートネットひろしま・高次脳機能障害専門支援アドバイザーの本田留美さんと、神奈川県リハビリテーション支援センター・地域支援室総括主査の瀧澤学さん、工房「羅針盤」管理者の山河正裕さん、山口加代子さん(オブザーバー)によるシンポジウム「退院後、状況に合わせて考えておくべきこと」が行われました。

本多さんは、水先案内人として家族に寄り添えるのが家族会であるとし、障害によりできなくなったことの理解が大事。瀧澤さんは、退院後自宅で生活をしてゆくポイントをあげ、制度をじょうずに活用することが大切。また山河さんは、住み慣れた地域で安心して生活を送る場として、グループホームの役割や利点を述べました。

●東京

専修大学人間科学部心理学科教授の岡村陽子さんが、「認知リハビリテーション」という心理学的側面からのリハビリについて説明。「神経細胞は一度死ぬと元には戻らないが、他の細胞同士がつながりネットワークができることで、よい回復効果が生まれる。包括的なリハビリが大切」と述べました。

その後、高次脳機能障害当事者の池田健太郎さんと母の令子さんが橋本圭司さんと鼎談。今も左半身のマヒが残る健太郎さんは英国オックスフォード大大学院留学中、暴漢に遭い高次脳機能障害を負いますが、その後4年かかって卒業。その事が英国のメディアにも取り上げられました。休憩後、橋本さんを司会に大阪会場と同じ講師陣で、同様のシンポジウムが行われました。最後に、橋本さんは「適切な治療環境の中で、障害がよくなるということをぜひ知って」と結びました。

ボッチャ体験&福祉相談会(東京都中央区)

中央区社会福祉法人連絡会主催 (事業団も同会に参加)

「床の上のカーリング」とも呼ばれるパラリンピックの正式種目「ボッチャ」の体験会を、18年3月18日に東京都中央区の月島区民センターで催しました。

ロンドンパラリンピックの古賀稔啓監督や日本代表・秋元妙美さんらを講師にお迎えし、高齢者や障がいのある方、小さい子どもを連れた家族ら175人がボッチャを楽しみました。



「不安だ。できるかな」と話していた保育園児や高齢者も、ボールを投げた後は「面白い。またやりたい」と繰り返し列に並びました。ボッチャの魅力に触れ、「機会があれば次回も参加したい」と話していました。近くの高齢者施設からは100歳の女性も参加しランプ(*)を使ってボールを投げると、皆から歓声があき起こりました。感想をたずねると「気持ち良かった」と笑顔で帰って行きました。

別の会場ではさまざまなテーマに専門家がこたえる福祉相談会も実施しました。

この催しは東京都中央区の社会福祉法人が連携し地域社会に貢献する取り組みの第1回で、朝日新聞厚生文化事業団も参加しています。

(*ランプ=ボールを投げることができないクラスの人が使用する小さな滑り台のような形をした補助具。ボールをランプへ転がすことで投球を行うことができます)

第38回障害者歩くスキーの集い(北海道)

事業団、朝日新聞北海道支社主催 三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第38回障害者歩くスキーの集い」を、18年1月14日に札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で行いました。

開会式で北海道歩くスキー協会理事長の丸山光徳さんは「スポーツ福祉を実践しようとした意気のある人たちが、この集いを始めました。パラリンピックは障害者アスリートの世界の競技大会ですが、スポーツ福祉というのは、地域の催しです。一緒にスポーツを楽しむことで、障害のある人とない人が共感しあうことです」と話しました。



計192人の参加者が、1、3、5、7キロの4コースに分かれて出場しました。4回目の出場となる同市東区の自閉症の女性(19)は母親(47)と3キロを歩きました。母親は「娘は歩くスキーが大好き。今日もずっと笑顔でした」と話しました。また、7キロを歩き4位でゴールした同市豊平区の女兒(11)は「障害者の人たちと走れたのも貴重な体験だった」と笑顔を見せました。

第38回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(福岡)

九州車椅子バスケットボール連盟、事業団主催

第38回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が、12月2日、3日、福岡県飯塚市の市第一体育館で開かれ、九州・沖縄から10チームが参加しました。注目は4連覇中の「佐世保WBC」(長崎)が更なる連覇を達成できるか、それとも他チームがそれを阻止するかという点です。

佐世保WBCは初戦を60対20で「HAGAKURE Dangers」(佐賀)に勝利、第2戦も68対23で「大分ウィルチェアーBC」に勝利し、今年も決勝へ進出。決勝の対戦相手となった「福岡breeze」は、初戦で「SEASIRS(シーサーズ)」(沖縄)を72対52で破り、第2戦では「太陽の家スパズ」(大分)を67対46で破っての決勝進出で、両者の決勝戦対決は一昨年、昨年と続いています。両者相譲らずの接戦となりましたが、結果は福岡breezeが65対53で勝利。佐世保WBCの連覇を阻止し、悲願の初優勝を成し遂げました。

上位の3チームは19年4月に大阪で開催される西日本予選会への出場権を獲得し、西日本予選会で3位までに入れば、日本選手権大会への出場となります。



第29回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(長崎)

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催。事業団共催

第29回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は9月9、10日の両日、長崎県大村市の市体育文化センター(シーハット大村)で開かれ、福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、沖縄の6県から計10チームが参加しました。

ツインバスケットボールは、下肢だけでなく上肢に障害を持つ人も参加できるように日本で考案された競技で、フリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートを打つことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められており、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮できます。

昨年の覇者、博多パトラッシュ(福岡)は今大会を欠場。前回、前々回と準優勝の熊本マウゴッツと籠球会(福岡)が決勝進出を果たしました。どちらが勝っても初優勝でしたが、籠球会の勢いが勝り、50対34で初優勝を決めました。



「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催 事業団ほか後援

障害の有無にかかわらず、誰もが地域や職場、学校などで人格と個性を尊重し合い、支え合う「共生社会」の実現を目指して心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」の募集が17年度も行われました。作文とポスターで最優秀賞に選ばれた受賞者の表彰式が12月5日、東海大学校友会館で行われました。全国からの応募は作文3199編、ポスター1399点の応募の中から選ばれた最優秀賞5人には賞状と副賞が贈られました。受賞者は次のみなさんです(敬称略)。

【作文】▽小学生＝千葉県我孫子市立湖北台西小学校2年 茅野葵 ▽中学生＝千葉県・筑波大学附属聴覚特別支援学校中学部3年 高橋茜 ▽高校・一般＝岩手県 駒場恒雄

【ポスター】▽小学生＝愛知県犬山市立犬山西小学校1年 太田いつき ▽中学生＝千葉県立君津特別支援学校中学部2年 三浦聖弥

第36回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡)

日本肢体不自由児協会など主催 厚生労働省、文部科学省、事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に「第36回肢体不自由児・者の美術展」が12月14日から17日まで東京芸術劇場(東京都豊島区)の5階ギャラリーで開催されました。同展には全国の肢体不自由児・者から合計676点の応募があり、その中から選ばれた入賞作品92点(特賞24点、優秀賞36点、佳作賞32点)が展示され、初日には入賞者の表彰式も行われました。朝日新聞厚生文化事業団賞を秋田県立秋田きらり支援学校中学部2年・石塚一輝さん(絵画)、長崎県立諫早東特別支援学校小学部6年・秋山大輝さん(書)に贈りました。同展は全国各地を巡回して実施され、18年3月5日から11日まで福岡市中央区天神の福岡市役所とアクロス福岡でも開催しました。

高齢者の福祉



CONTENTS

高齢者在宅ケアモデル事業 フォーラム「認知症カフェからの出発」(東京).....	26
認知症フレンドリーコミュニティフォーラム 町田市にみる認知症のひとにやさしいまちづくり	28
高齢者在宅ケアモデル事業 とにもつくる認知症カフェ開設援助成.....	30
高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ開設講座(山梨・秋田).....	31
高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ「あまなつ」(静岡)	32
朝日高齢者福祉セミナー2017(名古屋)	32
高齢ドライバーについて考える講演会(大阪、東京)	33
高齢期の豊かなくらしセミナー(大阪)	34
世代間交流プロジェクト「グラン・チャ・プロジェクト」(大阪)...	35
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国21ヵ所)	36

高齢者在宅ケアモデル事業 フォーラム「認知症カフェからの出発」

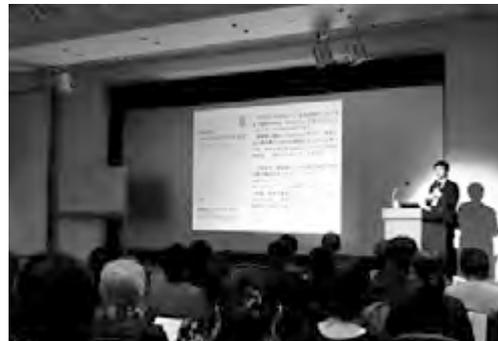
事業団主催

認知症がある人やその家族、ボランティアや認知症のことが気になる地域の人たちが集う「認知症カフェ」の活動を通して、認知症がある人も暮らしやすい地域づくりを考えるフォーラムを、2018年2月3日、東京・浜離宮朝日ホール小ホールで開催しました。「認知症カフェからの出発」と題した当フォーラムには、約180人が集まり、「認知症カフェ」を、今後どのように発展させ、地域で支えていく仕組みをつくっていくのか、意見を出し合いながら考えました。

●「次のステップ」を考える

武地一・藤田保健衛生大学教授による基調講演「認知症カフェの次のステップとこれから求められる役割」に始まり、2016年度と17年度に当事業団で実施した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」の贈呈団体から、3団体が実践報告を行いました。

東京都の「特定非営利活動法人若年認知症交流会小さな旅人たちの会」は、代表の高橋恵美子さんと共に、メンバーの若年性認知症の女性のご夫婦で登壇し、若年性



認知症専門のカフェの重要性を語りました。京都府で、在日コリアンの高齢者らを対象にしたカフェを運営している、「特定非営利活動法人京都コリアン生活センターエルファ」の李英玉さんには、多文化共生のまちづくりについて聞きました。山梨県の身延山大学では、学生が中心になって認知症カフェを運営しており、登壇した学生らが、カフェが子どもの学習支援の場にもなっていることを報告。今後の広がりや、大切にしたい視点について考える機会になりました。

その後のシンポジウム「認知症のご本人の視点と認知症の人を地域で支えるための取り組み」では、友野賀世・朝日新聞文化くらし報道部次長をコーディネーターに、服部万里子・服部メディカル研究所所長をコメンテーターに迎え、2006年～16年まで福岡県大牟田市の地域包括支援センターや同市保健福祉部長寿社会推進課などで、認知症ケアコミュニティ推進事業などを実践されていた梅本政隆さん（厚生労働省社会・援護局地域福祉課）や東京都町田市いきいき生活部高齢者福祉課地域支援係の米山雅人さんらに、それぞれの地域での取り組みについて聞いたほか、山梨県北杜市の一般社団法人だんだん会理事長の宮崎和加子さんに、同会が行っている地域で支える活動、「認知症カフェ」「訪問看護」「定期巡回」「グループホーム」などの連動について、発表していただきました。

町田市からは、米山さんのほか、認知症のある人の「本人会議」などを開催しているNPO法人「ひまわりの会・まちの保健室」室長平田容子さん、町田市在住の認知症の当事者の方、「Dカフェ」（認知症カフェ）を行政やNPOと一緒に開催しているスターバックスコーヒーージャパン株式会社町田金森店ストアマネージャーの林健二さんにも登壇いただき、行政、認知症の当事者、民間企業、それぞれの視点から「認知症のあるご本人の声から生まれた取り組み」について聞きました。参

加者からも、「地域住民と行政、民間企業の連携について参考になった」という意見や、「自分たちの地域でも『本人会議』を開催したい」「認知症のある当事者の声をもっと聴きたい」などの感想が多く寄せられ、これからの展開について考えるヒントを得られた様子です。

フォーラムの最後は、ワークショップ。ファシリテーターの浦山絵里・ひとづくり工房あすこ代表の進行のもと、参加者同士が活発に意見を交換し、それぞれが「次の一歩」を決め、新たな出発となりました。

また、会場ロビーでは、当事業団が2016年度、17年度に実施した「ともしつくる認知症カフェ開設応援助成」の贈呈団体によるポスター発表も行い、盛りだくさんの1日でしたが、最後まで熱心に見聞きする参加者の姿が見られました。



●「1日限りの認知症カフェ」を開催

さらに、フォーラムの特別プログラムとして、「1日限りの認知症カフェ」を会場隣の築地浜離宮ビルの「フルーツパーラー コリント」で開催しました。

認知症に直面している当事者に利用していただける本格的な「認知症カフェ」を目指しながら、カフェの居心地の良い雰囲気と入りやすい開かれたカフェにするために、街中の店舗での開催にこだわりました。今回は、「コリント」に多大なご協力をいただき、実現することができました。

また、当日の運営は、大分県由布市の介護老人保健施設「健寿荘」に全面的にご協力をいただきました。カフェのスタッフとして、「健寿荘」で開催している「オレンジカフェ由布」から、認知症のご本人と奥さま、介護を経験されたご家族、同施設の職員の方々にお越しいただき、訪れた人たちに、カフェに人を呼ぶ方法や心地良く過ごしてもらう工夫についてのアドバイスもいただきました。

「コリント」の店内には「オレンジカフェ由布」の様子を伝えるポスターが貼られ、認知症や介護に関するパンフレットが置かれました。また、「オレンジカフェ由布」のプログラムで認知症の方が作ったブローチも並びました。「オレンジカフェ由布」が「出張カフェ」と呼ぶ活動をする際などに販売し、その売り上げをレクリエーション費用にあてたりしているそうです。



●前日に助成金贈呈団体の研修会も

フォーラムの前日、2月2日には、当事業団の助成金贈呈団体を対象にした研修会を開催。社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事の早瀬昇さんを講師に招き、贈呈団体4団体によるカフェでの活動の報告と意見交換、ワークショップを行いました。ワークショップは、活動を進める中で出てきた「当事者の参加が少ない」「運営のあり方」「スタッフ不足」などの悩みをグループで話し合い解決策を探る内容。28団体の70人が参加し、活動を続けていくためのヒントを得るとともに、互いの交流を深めました。

当事業団では、認知症になっても住みなれた地域で暮らせる、そんな社会の実現へ向けた取り組みを、これからも様々な形で行っていきます。



認知症フレンドリーコミュニティフォーラム 町田市にみる認知症のひとにやさしいまちづくり

事業団主催 駐日英国大使館後援

英国で6、7年前から始まった認知症になっても安心して暮らせる街づくり「認知症フレンドリーコミュニティ（DFC）」が日本国内でもじわじわと広がりを見せています。たとえ認知症になっても、これまで通り地元でスポーツジムに通いスーパーで買い物もする。バスに乗ってお気に入りのレストランに出かける……。簡単に言えば、認知症の人が暮らしにくいバリアを取り除こうという取り組みです。コミュニティ内の商店や交通機関など、様々な事業者やNPOが、認知症の人が必要とする「サービス」は何かを考え、それを提供する。各事業者のネットワークが構築されれば、包括的な認知症の人にやさしい街が出来上がるというわけです。事業者には「ボランティア」として関わりを求めるのではなく、認知症の当事者を「消費者・顧客」としてとらえてもらえれば、事業者にも「やる気」を与えることができます。

英国ではアルツハイマー協会が主導して、すでにマンチェスター、リバプール、リーズやプリ



マスなど、イングランド、ウェールズ（同協会の管内）で約250もの地域がDFCとして認定されています。ヨーロッパにも広がりつつあり、ベルギーのブルージュなどが注目されていて、日本では東京都町田市、京都府宇治市や福岡県大牟田市などがこの考えを取り入れて街づくりを進めています。

朝日新聞厚生文化事業団では2016年度から認知症フレンドリーコミュニティへの取り組みを紹介する講演会を開催してきました。

17年度は2018年2月17日、大阪市北区の梅田スカイビル・ステラホールで、2020年までにロンドンを認知症フレンドリー首都にしようと改革をすすめているロンドン市保健委員会事務局長のガス・ウィルソンさんと、計画をサポートする英国アルツハイマー協会のファーン・ハワードさんを招き、交通機関や娯楽施設の取り組みについて話してもらいました。

またフォーラム後半は、認知症の人の意見を取り入れた街づくりで、いま全国的に最も注目されている東京都町田市から、市役所の担当課職員や当事者の集いの主催者、当事者に「仕事」を与えるデイサービスの主催者や、店舗で認知症カフェを開催しているコーヒチェーン「スターバックスコーヒー」の店長が、それぞれのユニークな活動を報告しました。

このフォーラムはテレビ会議を通じて、「認知症フレンドリーコミュニティ発祥の地」として、日本からも視察が相次いでいる英国プリマス市と中継で結び、プリマス大認知症アカデミックパートナーシップリーダーのイアン・シェリフさんや、弁護士、コミュニティ活動のリーダーらがフォーラムに参加。町田市の関係者や会場の参加者も含めた活発な質疑応答が行われました。



高齢者在宅ケアモデル事業 ともにつくる認知症カフェ開設応援助成

事業団主催

16年度に新たに創設した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」の2年度目となる17年度は、全国の16団体に計約1000万円を贈呈しました。

これは、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせる社会を築くことを目指し、それを実現するためのひとつの手段として「認知症カフェ」に注目し、新規で立ち上げるカフェを対象に、その開設・運営をする団体・グループを応援するための助成事業です。専門職や医療従事者だけの活動にとどまらず、市民レベルでの活動の広がりも応援するものであり、地域の中に新たな連携を育み、そこから住民同士が支え合うための新たな活動が生まれることを助けることが狙いです。そのため、今年はさらに、「認知症カフェ」を通してどのような地域にしたいか、そのビジョンに、より焦点をあて進めました。

1団体につき最大で100万円、開設のための初期費用と向こう3年間の運営費にあてられ、行政での補助金では対象になりにくい人件費についても、支出総額の30%まで認めている、といったことが特色です。



17年度の助成団体

	所在地	団体・グループ名	カフェの名称
1	宮城県	ひまわり会	わいわいカフェ「かこまち」
2	福島県	みほたカフェ&マーケット運営協議会	みほたカフェ&マーケット
3	埼玉県	ひまわりを支える会	カフェひまわり
4	埼玉県	鳩山ぼっぼ会	認知症カフェ鳩山ぼっぼ
5	神奈川県	和泉中央地区社会福祉協議会	にちようカフェ
6	石川県	田鶴浜地区生活・介護支援サポーター会	田鶴浜カフェ
7	福井県	認知症の人と家族の会 福井県支部 敦賀市地区会	オレンジカフェ だんね
8	長野県	ごかの風	わいわいかふえ
9	三重県	グループホーム渚園四日市	カフェなぎ茶
10	京都府	京都コリアン生活センターエルファ	認知症カフェ「なないろまだん」
11	大阪府	氷室町に認知症カフェを創る会	ほっこりカフェ氷室
12	大阪府	いまふくソーシャルネット	いまふくオレンジカフェ
13	奈良県	若年認知症当事者の会 絆	大和D・booksカフェ~なないろCafe~
14	広島県	江田島市「子どもと一緒に認知症を考える会」	ものわずれかい(会)?オレンジカフェ
15	長崎県	芦辺懇会	Aカフェ
16	熊本県	甲佐オレンジカフェ連絡会	甲佐オレンジカフェ

募集を5月10日に開始し、6月12日の締め切り時には、全国から116件の申し込みがありました。実地調査も含めて当事業団内に設けた選考委員会による3次の選考の末、16件、総額1千82万円の贈呈をしました。

17年9月に朝日新聞などで贈呈団体を発表し、東日本の6団体と西日本の10団体に分かれて、9月21日に朝日新聞東京本社で、28日に大阪本社で贈呈式を行いました。

2年間で全国の40団体に総額3千87万3500円を助成。ネットワークを作りながら、「認知症カフェ」を通してどのような地域をつくっていきけるのかを共に考えていきます。

高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ開設講座(山梨・秋田)

事業団主催

市民レベルで認知症カフェがさらに広がり、社会に浸透していくよう、当事業団では、京都認知症カフェ連絡会代表世話人でカフェの重要性を提唱している武地一さん(藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科教授)の講演などを通して、認知症カフェの意義や開設・運営のポイントを学ぶ講座を、全国を巡回し開催しています。

講座3年目となる17年度は、「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」の贈呈団体と一緒に開催し、今後、その団体を中心に、認知症カフェがさらに発展することを目指しました。

6月3日に山梨県・北杜市生涯学習センターこぶちさわで、一般社団法人だんだん会とともに開催し(北杜市後援、一般社団法人だんだん会協力)、約170人が参加、11月19日には、秋田県・能代ふれあいプラザ・サンピノで、能代市キャラバン・メイト連絡協議会とともに開催し(能代市後援、能代市社会福祉協議会、能代市キャラバン・メイト連絡協議会、仙台市地域包括支援センター連絡協議会協力)、100人を超える方が参加、武地さんが話した「認知症の当事者の人たちが足を運び、互いに関わることでできるカフェ作りが大切」などのポイントや意義について聴き入りました。

また、各地で認知症カフェを運営している方々の実践報告も行い、具体的な内容を伝えるように努めています。今年、静岡県南伊豆町のNPO法人風楽理事長の渡邊映子さんや岐阜県恵那市地域包括支援センターの足立哲也さん、仙台市泉中央地域包括支援センター所長上野優加子さん、認知症の人と家族の会栃木県支部世話人代表金澤林子さんに、それぞれの取り組みについて聞きました。パネルディスカッションの際には、活発な意見交換もあり、認知症カフェへの関心の高さがうかがえました。

高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ「あまなつ」(静岡)

事業団など主催

「認知症カフェ『あまなつ』」は、認知症になっても住み慣れた家やまちで暮らすため、認知症の人やその家族、認知症のことが気になる地域の人、ボランティア、そして医療やケアの専門職、行政担当などの人たちが集まって気軽に話せる場所を目指して、NPO法人風楽(ふうら)とともに2015年2月に開設しました。



南伊豆町の高齢化率は44.5%(17年10月1日現在)。この町での認知症カフェの活動が地域でお互いの生活を支えあっていける、そんな社会の先進事例になれば、との願いからです。「あまなつ」には毎回5~10人前後の方々が集まります。毎月第2木曜日は「あまなつの日」と自身の予定に組み込んで、毎回参加してくださる方もいます。

17年度最後の開催は3月8日。37回目の「あまなつ」には、悪天候にもかかわらず5人が訪れ、参加者2人が差し入れてくれた手作りのおやつを囲みながらの団欒となりました。

当事業団は開設以来「あまなつ」を支援し、スタッフもほぼ毎回、集まりに参加してきました。開設3年の節目となる今回を以て、継続的な形での支援を終了します。

「あまなつ」は今後も、風楽が開催を続け、町役場そばでの出張カフェも予定しています。認知症になっても安心して暮らし続けられる町づくりを目指す「あまなつ」が今後も長く続くよう応援しています。

朝日高齢者福祉セミナー2017(名古屋)

事業団、朝日新聞社、愛知高齢者福祉研究会主催

高齢者を支える医療や福祉を考える「朝日高齢者福祉セミナー2017」が7月9日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれました。「医療と介護をつなぐ」をテーマに講演とシンポジウムがありました。

約200人が参加。日本福祉大学の後藤澄江教授が「高齢者の暮らしと介護保険のゆくえ」と題して基調講演を行いました。



「健康」「経済的安定」「家族の存在」の三つがこれまで「よき老後」を約束する条件としてあげられてきたが、社会保障財源の逼迫や高齢者単独世帯の増加などを受けて「地域での支え合いなど関係の作り直しが必要だ」と強調しました。

シンポジウムでは訪問介護や居宅介護の一線で働く担当者らが実例を踏まえて、課題や望ましい姿を話し合いました。

高齢ドライバーについて考える講演会（大阪、東京）

事業団主催

高齢ドライバーが関係する事故や違反が、連日ニュースで報道されているなか、高齢者の運転能力と認知症に対する正しい理解を深める講演会「高齢ドライバーについて考える講演会 運転、大丈夫ですか？」を7月8日に大阪のコングレコンベンションセンター、9月16日に東京・築地の浜離宮朝日ホールで開催しました。

高齢ドライバーの問題は加齢に伴う身体能力の衰えが主な原因ですが、認知症に起因するものが相当数あるとされています。いつまでも安心、安全な運転を続けるためには何に気をつければいいのか。認知症の全体像を正しく理解して、高齢者の車の運転について専門家と考える講演会で、地域包括支援センターや市町村の社会福祉協議会などの専門職の方々や、高速道路の関係者や自動車ディーラーの方々など、約180人が集まりました。



講師は週刊朝日に連載中の、若い介護士の奮闘を描いた人気漫画「ヘルプマン！！」の作者のくさか里樹さん。取材を通じて出会った高齢者と運転や、過疎地で高齢者の移動を支える新しい仕組みについて話しました。交通評論家の中村拓司さんは、改正道路交通法の内容や、いつまでも安全に運転を続けるためにはどうすればいいのかを話しました。また参加者には講演会前に「運転時認知障害早期発見チェックリスト30」を実施してもらい、講演会の中で中村さんがリストについて解説。運転能力の低下が、実際に身体能力にどのように現れていくかを話しました。



認知症が専門の研究者の方も登壇され、大阪会場では認知症予防の第一人者としてテレビなどのメディアにもたびたび登場されている鳥取大医学部教授の浦上克哉さんが、認知症の正しい理解と運転について話しました。東京会場では慶応義塾大学医学部教授の三村将さんが、海外の運転免許事情を交えながら、認知機能の評価と今後の対応について話しました。

高齢期の豊かなくらしセミナー（大阪）

高齢期の豊かなくらし研究会、事業団主催

市民の目線に立ち、高齢期の問題をとらえ、情報を提供する講演会です。今年度は、高齢期の住まいとくらしを考える「住み替え」と「在宅」、高齢期を迎える「備え」の3つの講演会を、大阪市北区中之島の朝日新聞社アサコムホールと中之島会館で開催しました。

●「高齢期の住まいとくらしⅠ～住み替える」～自分で決める老後の住まい方

6月10日、アサコムホールで、近畿圏内の高齢者住宅の情報を提供している、コミュニティネットワーク協会高齢者住宅情報センター大阪センター長の米沢なな子さんを招き、高齢者ホームの実際、選択の仕方について学びました。高齢者住宅選びのポイントは、無理のない資金計画、元気なうちに住み替えて環境に慣れる、経営者にしっかりとした理念があること、本人に希望があれば看取りまでしてくれる、種類だけにとらわれず、仕組みやサービスなど内容で選ぶことが大切と、米沢さんは事例を交え話してくれました。

●「高齢期の住まいとくらしⅡ～在宅」～住み慣れた地域で、できるだけ長く住み続けるには

10月7日、中之島会館で、地域で生活や介護の相談を受け、権利擁護にも取り組んでいるたむらソーシャルネット代表の田村満子さんを招き、住み慣れた地域で、できるだけ長く訪問医療や介護サービスを受けながら暮らすにはどのような点に気をつければよいのか、介護保険制度をベースにお話しいただきました。

まず、「気になったタイミングで、時々、介護のことを考えてください」と田村さん。介護保険の手続きや相談などは地域包括支援センターがあり、そこにいるケアマネージャーや介護支援専門員らが対応してくれます。田村さんは成年後見制度を活用することにより、認知症になり、自身の判断ができなくなっても、自宅で最期を迎えた人を何人も見てきたと語りました。

●「高齢期を迎えるために考えておくべきこと」～最期まで自分らしく

18年2月24日、アサコムホールで、認知症ケアや高齢者虐待防止に取り組んでいる関西学院大学非常勤講師の佐瀬美恵子さんに、高齢者の実態や高齢期を迎えるにあたり考えておかなければならない、高齢期の住まいや暮らし、看取りなどについてお話しいただきました。佐瀬さんは、自分の高齢期を、どこで、どのような暮らしをイメージし、介護が必要になった時のこと、最期をどう迎えるかなどを、元気な時に、家族と明るく話し合うことが大切と述べました。家族が居なくても、本人が第三者に対し、自分が亡くなった後の諸手続き、葬儀、納骨、埋葬など代理人に託す「死後事務委任契約」にもふれました。



世代間交流プロジェクト「グラン・チャ・プロジェクト」(大阪)

大阪YMCA、事業団主催 大阪府教育委員会後援

次代を担う青少年たちが長寿社会をどのように生きるのか。自分自身の「健康」「家族」「地域」「社会」をどう考えていけばよいのかを、高校生とシニアが交流し相互に学び合うことをねらいに、公開講座や宿泊プログラムを実施しました。高校生たちはまた地域のシニアの暮らしぶりにもふれ、吹田市の万博公園や大阪市内の商店街で、シニアと交流プログラムをもちました。さらに高齢者や障害者の理解や健康について学ぶ出前講座を2高校で開催。高校生20人と多くのシニアが参加しました。

●公開講座(7/16)

大阪市西区の大阪YMCA会館で、高校生たちは高齢者と障害者の理解、健康講座、体力測定、骨密度の測定、車いすの体験の講座を受講しました。

●六甲1泊交流(8/5~6)

六甲山YMCAで、高校生とシニアの自然体験交流プログラムを実施しました。2日目の自炊のランチを楽しんだ交流では、あるシニアの女性が乳児の頃中国で終戦を迎え、山口県の母の故郷に帰ったものの頼るあてもなく大変苦勞したという話に、高校生たちは聴き入っていました。高校生たちの中には車の整備の仕事を将来の目標におく人や、アルバイトをしながら海外に出かけ、現地の人たちと交流する人もいて、「私たちの頃には考えられない。その頃は食べることで必死だった」と、シニアたちも今と昔の時代の違いに驚いた様子でした。

●地域のシニア交流(8/9、10)

選択プログラムで、まず万博公園で行われた「パークゴルフ」交流(8/9)。手慣れたシニアの腕前に対し、意外と高校生たちも健闘していました。また、「地域で暮らすシニアとの交流」(8/10)では、大阪市中央区の包括支援センターで、高齢者をどのように地域で支援をしているかを学び、センター内のデイサービスで利用者の人たちと交流。その後昔ながらの風情を残す空堀商店街で、周辺に住むシニアの人たちとランチでおしゃべりしました。またこの地域で訪問医療をしている医師にもその仕事内容をうかがいました。



●出前講座(10/12、12/1)

高齢者や障害者について学ぶ「出前講座」を、授業の一環とし、箕面学園高校(10/12)と大阪YMCA学院高校(12/1)の2カ所で開催しました。視覚障害体験「ブラインドウォーク」では、介助の方法などを学びました。

高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国21カ所)

事業団主催

日ごろ外出の機会が少ない、高齢者向け施設の入居者や利用者らを対象に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」は、2017年度で8年目を迎えました。17年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など21カ所を訪問しました。ゆうゆうビジットの魅力をわかりやすく伝えるため、近畿圏の施設で動画を撮影し、YouTubeやホームページから配信しました。撮影は大阪府大阪狭山市「くみのき苑」＝河畠成道(バイオリニスト)、大阪市「四天王寺たまつくり苑」＝福田進一(ギタリスト)、滋賀県大津市「福寿荘」＝ベルリントリオ(ピアノ、チェロ、バイオリン)、大阪府松原市「聖徳会 大阪老人ホーム」＝高砂部屋の4施設。

●ベルリントリオ

ベルリンに音楽留学をしたピアニストの宮本聖子さん、バイオリニストの宮田英恵さん、チェリストの石田聖子さんの3人で構成する「ベルリントリオ」が4月15日、天理市の介護老人福祉施設「清寿苑」でミニコンサートを開きました＝写真。



各楽器の特徴についての説明から始まり、ビバルディの四季から「春」をはじめ全10曲を披露。日本の唱歌や、皆さんからのリクエスト曲「花は咲く」では、体でリズムをとりながら口ずさむ声で会場が一体となりました。

7月1日は神戸市の介護老人福祉施設「ぼー愛」、8月8日は鹿児島県鹿児島市の特別養護老人ホーム「慈眼寺園」、2018年1月14日は滋賀県大津市の特別養護老人ホーム「福寿荘」、3月11日は大阪府吹田市の介護老人福祉施設「ちくりんの里」を訪問しました。

●川畠成道

バイオリニストの川畠成道さんとピアニストの恵村友美さんが4月24日、仙台市の特別養護老人ホーム「せんだんの里」を訪問してミニコンサートを開きました。

「愛の喜び」や「アベマリア」などクラシック音楽9曲を披露しました。二人の息の合った演奏に、施設の入所者ら約75人が聴き入りました。



7月10日は川畠さんとピアニストの佐藤勝重さんが、愛知県丹羽郡の介護老人保健施設「さくら荘」、8月30日は神戸市の特別養護老人ホーム「長田すみれ園」、10月13日は大阪府大阪狭山市の特別養護老人ホーム「くみのき苑」を訪問しました＝写真。

●日色ともゑ&マリオネット

女優の日色ともゑさんと、ポルトガルギターとマンドリンのデュオ「マリオネット」は5月14日、岡山市の特別養護老人ホーム「さわらび苑」を訪問しました。約50人の利用者やその家族らを前に朗読や演奏を披露しました。マリオネットが「暗いはしけ」「南蛮渡来」などを演奏。日色ともゑさんが童話「白いぼうし」（作・あまんきみこ）を朗読しました。続いて、「月の砂漠」「ふるさと」などをみんなで合唱しました。手拍子をしたり、体を揺らしたりと楽しい時間が流れました。翌日の15日は広島市の特別養護老人ホーム「ナーシングゆうゆう」、10月29日は大分県竹田市の特別養護老人ホーム「こころの郷」=写真、翌日の30日は大分県大分市の介護老人福祉施設「アルメイダメモリアルホーム」、2018年2月10日は群馬県高崎市の介護老人保健施設「ジャスミン」を訪問しました。



●福田進一

ギタリストの福田進一さんが5月20日、仙台市の介護老人保健施設「春風のころ」を訪問し、「宵待草(よいまちぐさ)」や「禁じられた遊び」など全10曲を披露しました。お客さまとのやりとりでは、軽妙な語り口で会場が沸く場面もありました。84歳の入所者は「生の演奏を生まれて初めて聞きました。いい思い出になりました」と笑顔で話しました。6月19日は広島市の特別養護老人ホーム「虹の里」、11月17日は大阪市の介護老人福祉施設「四天王寺たまつくり苑」、2018年1月26日は東京都渋谷区の介護老人福祉施設「渋谷区あやめの苑・代々木」を訪問しました=写真。



●高砂部屋の力士

大相撲名古屋場所を終えたばかりの高砂部屋の力士とともに勝ち越した三段目の朝之丈さんと朝興貴さんが7月24日、愛知県豊川市の特別養護老人ホーム「穂の国荘」を訪問しました。土俵代わりに用意された畳の上で相撲の技を次々披露しました。高砂部屋マネージャーの松田哲博(元一ノ矢)さんによる解説や相撲甚句を披露しました。その後職員や近くの保育園の子供たちが力士に挑戦。子供たちが朝興貴さんを押し出すと歓声が上がりました。参加者にはちゃんこ鍋も振る舞われました。力士と握手をした91歳の利用者は「昔、名古屋場所を見に行ったことがあるの。そのときよりも近くでお相撲さんを見ることができて感謝です」と話しました。11月27日は福岡市の特別養護老人ホーム「飛鳥」=写真、2018年3月26日は大阪府松原市の特別養護老人ホーム「聖徳会大阪老人ホーム」を訪問しました。



2010年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で144回実施。

2017年度の全訪問先は次の通りです。動画はYouTubeでご覧になることができます。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	ベルリントリオ	4月15日	奈良県天理市	介護老人福祉施設「清寿苑」
2	川島成道	4月24日	仙台市	特別養護老人ホーム「せんだんの里」
3	日色ともゑ・マリネット	5月14日	岡山市	特別養護老人ホーム「さわらび苑」
4	日色ともゑ・マリネット	5月15日	広島市	特別養護老人ホーム 「ナーシングホームゆうゆう」
5	福田進一	5月20日	仙台市	介護老人保健施設「春風のころ」
6	福田進一	6月19日	広島市	特別養護老人ホーム「虹の里」
7	ベルリントリオ	7月1日	神戸市	介護老人福祉施設「ぼー愛」
8	川島成道	7月10日	愛知県丹羽郡	介護老人保健施設「さくら荘」
9	高砂部屋の力士	7月24日	愛知県豊川市	特別養護老人ホーム「穂の国荘」
10	ベルリントリオ	8月8日	鹿児島県鹿児島市	特別養護老人ホーム「慈眼寺園」
11	川島成道	8月30日	神戸市	特別養護老人ホーム「長田 すみれ園」
12	川島成道	10月13日	大阪府大阪狭山市	特別養護老人ホーム「くみのき苑」 
13	日色ともゑ・マリネット	10月29日	大分県竹田市	特別養護老人ホーム「こころの郷」
14	日色ともゑ・マリネット	10月30日	大分県大分市	介護老人福祉施設 「アルメイダメモリアルホーム」
15	福田進一	11月17日	大阪市	介護老人福祉施設 「四天王寺たまつくり苑」 
16	高砂部屋の力士	11月27日	福岡市	特別養護老人ホーム「飛鳥」
17	ベルリントリオ	1月14日	滋賀県大津市	特別養護老人ホーム「福寿荘」 
18	福田進一	1月26日	東京都渋谷区	介護老人福祉施設「渋谷区あやめの苑・代々木」
19	日色ともゑ・マリネット	2月10日	群馬県高崎市	介護老人保険施設「ジャスミン」
20	ベルリントリオ	3月11日	大阪府吹田市	介護老人福祉施設「ちくりんの里」
21	高砂部屋の力士	3月26日	大阪府松原市	特別養護老人ホーム「聖徳会 大阪老人ホーム」 

福祉啓発・公衆衛生



C O N T E N T S

17年度自殺防止事業 公開講座 「自殺!? ちょっと待って!」(福岡)	40
西部朝日福祉助成金(福岡)	40
アサヒベビー相談室(大阪、高槻、大津)	41
第69回保健文化賞(東京)	41
遺贈・遺言セミナー(東京、大阪、名古屋、福岡)	42

17年度自殺防止事業 公開講座 「自殺！？ ちょっと待って！」（福岡）

福岡いのちの電話、事業団主催
朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援。大同生命厚生事業団協賛

10月21日、福岡市のTKPガーデンシティ天神で自殺を防ぐために何ができるのかを考える公開講座を開催しました。講師に西日本新聞社・編集委員の安武信吾（やすたけ・しんご）さんを迎え、「食べることは生きること」と題した講演を行い、聴講者約110人と共に自殺予防の糸口を探りました。



安武さんは、ある小学校の取り組み「子供が作る弁当の日」を紹介。子供本人に自分の弁当を作らせる試みです。ある女の子が、自宅から単身赴任先へ戻るお父さんの分も弁当を作ったところ、お父さんは新幹線の車内で感激して泣きながら食べたそうです。また、入院中のおばあさんにも作ると、おばあさんもとても喜び「うまかったよ」と伝え、その子もとても嬉しくなったといます。「その女の子は、人を幸せにできる、自分に価値がある、という経験をしたはず。そうした体験こそが、自尊感情を育てる。そういう自己肯定感こそが生きる力になるのでは」と、安武さんは語りました。

西部朝日福祉助成金（福岡） 「いのちの電話」など県内の3団体に

17年度「西部朝日福祉助成金」の贈呈式を18年3月12日、朝日新聞西部本社（北九州市小倉北区）で行い、長年、福祉活動に取り組む福岡県内3団体の代表者に助成金の目録を贈呈しました。3団体は、開局40周年を迎えた北九州いのちの電話（北九州市小倉北区）、福岡いのちの電話（福岡市中央区）、県交通遺児を支える会（同）の各団体で、助成金は15万円ずつです。



いのちの電話の両団体は、ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面した相談者が失いかけている生きる力を取り戻すのをサポートしています。「ボランティアの高齢化と応募者減少が課題だが、数字には表れない効果があると信じて頑張る」とのことです。県交通遺児を支える会は「奨学金など、遺児らの支援に役立てたい」と話しました。助成金には、事業団が年末年始に行った「朝日ふれあい募金」が充てられています。

アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

事業団主催

育児に悩む親のために、デパート内に無料の育児相談室を設け、医師や栄養士などの専門家が、病気や栄養などについての相談を行っています。実施場所は、大阪市、大阪府高槻市や大津市の三つのデパートです

大阪・天王寺のあべのハルカス近鉄本店は、1957年に全国で初めてデパート内に無料の相談室を開設。2014年春にリニューアルオープンし、毎年大勢の相談者が訪れています。ここには大阪市立大学医学部附属病院小児科の医師のほか、栄養士やヨガインストラクター、小児歯科医師などさまざまな専門家がそろっています。春と秋に、親子で参加できる保育の専門家によるパネルシアターや手遊びのイベントや、管理栄養士と近い距離で話しながら聞くことができる「離乳食講習会」があります。大阪府高槻市の西武高槻店（1974年開設）では、毎週木曜日に小児科医が相談にあたっています。大津市の西武大津店（2004年開設）では、子育て支援施設「育（はぐ）ママセンター」で相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスをするベビー相談を実施していました。現在は開催を休止しています。



今年度の各相談室の利用者数は次の通りです。

あべのハルカス近鉄本店 926人（1回平均14.7人） ミニ講演会307人

西武高槻店342人（1回平均7.8人）

第69回保健文化賞（東京）

第一生命保険主催 厚生労働省、事業団など後援

保健衛生分野の向上に貢献した団体と個人に贈られる「第69回保健文化賞」贈呈式が10月12日、東京都内のホテルで行われました。9団体と個人6人の計15件に、賞状と賞金（団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞が贈られました。受賞者は翌日皇居で天皇、皇后両陛下に受賞のあいさつを行いました。



受賞団体・個人は以下の通りです（敬称略）。

【団体】いばらき腎臓財団▽ジャパンハート（東京）▽女性ネットSay a—Say a（東京）▽全国結核予防婦人団体連絡協議会（東京）▽アレルギーを考える母の会（神奈川）▽和歌山県難病の子ども家族会▽島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」▽御津医師会（岡山）▽宮崎県食生活改善推進協議会

【個人】医師・小笠原一夫（群馬）▽東洋大学教授・佐藤加代子（東京）▽日本体育大学特別招聘教授・武藤芳照（東京）▽助産師・宮下美代子（神奈川）▽医師・矢津剛（福岡）▽医師・近藤達郎（長崎）

遺贈・遺言セミナー（東京、大阪、名古屋、福岡）

事業団主催

●【前期】安心して暮らすための遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、名古屋、福岡）

認知症になった場合の備えや、相続で起きうる問題、簡単な遺言状の書き方などについて学ぶセミナーを、東京、大阪、名古屋、福岡の朝日新聞各本社で開催しました。東京（2017年5月18日、参加99人）、大阪（5月27日、同142人）、名古屋（6月9日、同20人）の各会場は、弁護士の中山二基子（ふきこ）さん、福岡会場（6月28日、同28人）は、石井将（まさる）弁護士が講演をしました。



中山さんは、遺言を準備しておいたおかげでトラブルなく相続ができた例と、遺言を残さなかったために大勢の親族が現れ、相続に苦労した例を紹介。「『全財産を〇〇に相続させる』と、一行だけ遺書に書いておけば問題は起きなかったはず」と述べました。

福岡会場では石井さんが、相続制度の見直しが検討されているとし、「相続」が「争族」にならないための予防策や「知っておくと役立つ遺言と相続の法律知識」について、詳しく説明しました。自分の財産を自分で処理出来る「遺言書」は、トラブル回避に役立つことを強調されました。

●【後期】遺贈・遺言セミナー「おひとりさまの老いじたく」（東京、大阪）

おひとりさまや、子どものいない夫婦の世帯を主な対象としたセミナーを朝日新聞大阪本社（10月28日、65人参加）と、東京本社（18年2月27日、93人参加）で開きました。大阪会場の講師は布施憲子弁護士＝写真下。東京会場では中山二基子弁護士＝写真上＝が講師を務めました。

中山さんは、年をとると心配になることとして、①相続、②自分の葬儀やこれまでの入院費の支払いといった「死後の事務処理」、③認知症が出た時の対処という3点を挙げました。

近年は葬儀や納骨、老人ホームの居室の明け渡しなど、自分がこの世を去った後の事務手続きについて遺言に記す人が増えたそうです。せっかく作った遺言がきちんと実行されるよう、信頼できる人を遺言執行者に指定しておいたり、財産を自分で管理できなくなった時に備えて任意後見契約やホームロイヤー契約などを行っておく、などのアドバイスがありました。

大阪会場では布施さんが、遺言書がなくて残された家族が困った事例など、具体的な事例を交えて講演しました。「任意後見人はどう探すのか」という質問に、弁護士会を通したり、インターネットを使って調べることを薦め、自分の目で見て自分で選ぶことが大切だと話しました。



チャリティー事業



CONTENTS

朝日チャリティー美術展(名古屋・大阪・東京)	44
第67回メサイア演奏会(東京)	45
第59回各派合同三曲演奏会(大阪)	46
第65回洋舞合同祭(大阪)	46
第64回各流合同茶会(大阪)	47
第5回関西学生チャリティー茶会(大阪)	47
第55回チャリティー大茶会(北九州)	48
柞勝会 第35回歳末チャリティー長唄演奏会(東京)	48
上野学園 第58回慈善演奏会(東京)	48
浦和学院高等学校吹奏楽部 第13回チャリティーコンサート(埼玉)	48

朝日チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京)

事業団、朝日新聞社主催

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京で開催しました。文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・版画家、書家、宗教家、茶道家、歌舞伎役者など各界の著名人ら約2700人にご協力をいただき、販売作品は日本画、洋画、工芸、版画、書、色紙など約3900点に上りました。

●名古屋展

第64回名古屋展は12月8日から10日までの3日間、名古屋市中区栄の丸栄百貨店で開催しました。約800人の作家から約1100点のご協力をいただきました。

入札作品を年々増やして今回は全体の2割強、300点近くになりました。先着順の即売では慌ただしいとおお客様の声を反映しました。初日から2日間、展示して価格を入札していただく方式なので、作品をゆっくり鑑賞していただきました。主な作品を写真で紹介する朝日新聞別刷りには掲載点数をさらに増やし、お客様の満足度向上に努めました。



●大阪展

第91回大阪展を12月27日から29日まで、大阪市中央区の高島屋大阪店・グランドホールで開催しました。約900人の作家から1300点余りの寄贈をいただき、入札と即売で販売。ガラス工芸特設コーナーでは、切子ガラスなど20点が展示され、色とりどりのきらびやかな作品に来場者の注目が集まりました。



●東京展

93回目となる東京展は、18年4月6日から9日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、約1000人の作家から作品約1500点をご寄贈いただき、入札と即売で販売しました。

6・7日は日本画家、洋画家、8・9日は工芸家、版画家、書家、著名人の作品を販売。当展はリピーターの方が多いのですが、今年も多くの方にお越しいただきました。



●「ジオラマ展」を初開催

東京展の会場では、16年度まで実施していたNext Art展に代わり、今年度は新たにジオラマ展を開催し入札で販売しました。お越しいただく方々に新しい芸術を楽しんでいただきたいという思いから実現いたしました。

東京都豊島区のジオラマ専門店「さかつうギャラリー」の協力のもと、14人のジオラマ作家より17作品をご寄贈いただきました。作品は、日本の懐かしい風景や洋風の建物、お菓子の世界など想像力豊かなものなど多岐にわたり、多くの来場者の目を楽しませていました。売り上げは、作家の創作活動と当事業団の社会福祉事業に役立てます。



(チャリティー美術展に作品を出展いただいた方々のお名前は54～61ページに、ジオラマ展協力作家のお名前は61ページに掲載しました)

第67回メサイア演奏会(東京)

事業団、朝日新聞社主催
東京藝術大学音楽学部協力 原田積善会特別協賛

チャリティーコンサート第67回「藝大メサイア」を12月21日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました。東京藝術大学OBで札幌交響楽団指揮者の垣内悠希さんによる指揮で、藝大フィルハーモニア管弦楽団と同大声乐科の学生ら約200人が「メサイア」を披露。荘重な「ハレルヤ」コーラスで約2300人の聴衆を魅了しました。



このコンサートは、1951年(昭和26年)の第1回より同大学同学部の教員、学生が出演する年末恒例のチャリティーコンサートとして人気が高く、今回が67回目。1997年からは美術学部教員の協力も得てポスターやプログラムを制作しており、今年と同大学美術学部デザイン科教授の松下計さんにご協力いただきました。

来場者の間では長年「藝大メサイア」の愛称で親しまれ、リピーターも多く訪れます。中には第1回から毎年来場し、ソリストの卒業後の成長を楽しみにされている方もいらっしゃいます。

今年のソリストは、横山和美さん(ソプラノ)、野間愛さん(アルト)、須澤尊臣さん(テノール)、栗原峻希さん(バス)のみなさんが務めました。

第68回「藝大メサイア」公演は、2018年12月20日(木)に開催予定です。

第59回各派合同三曲演奏会

事業団主催

琴、三絃、尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が出演する演奏会が11月23日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催されました。観客は約1000人。次々と奏でられる優美で華やかな和の音色に浸りました。出演社中は次の通りです(出演順、敬称略)。



▽須山知行・中島警子社中「夢殿」▽菊井松音と菊井箏楽社「千鳥の曲」▽当道友楽会 菊武社中「嵯峨の秋」▽菊扇弘子と琴栄会「肥後の夜まつり」▽都山流大阪府支部「爛-RAN-」▽酒井典彦社中「六段くずし」▽箏曲和光会・琴古流 玉川社「里香調」▽日本音楽大道派仁康中里会「富士」▽菊塚春秋会「三つの景色」▽中村双葉と葉風会「箏八重奏曲」▽菊田歌雄社中「春秋」▽中扇喜琇鳳社中「嵯峨の秋」▽遊琴会「湖都」▽大阪正絃社「峠の少女」

第65回 洋舞合同祭(大阪)

事業団主催

12月25日から27日までの3日間、大阪市北区中之島のフェスティバルホールで、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「第65回洋舞合同祭」を開催しました。17団体21チーム(児童・混合の部12チーム、大人の部9チーム)総勢1000人余りの出演者が日頃の成果を披露し、華やかなステージで観客を魅了しました。入場者数は4400人。



27日には江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所が65回記念表彰を受け、舞台上で当事業団から表彰状と記念品が贈られました=写真。

出演団体は次の通り(出演順)

- 【25日】児童・混合の部=大阪バレエアカデミー、江川バレエスクール、法村友井バレエ学校、波多野澄子バレエ研究所▽大人の部=波多野澄子バレエ研究所、江川バレエスクール、大阪バレエアカデミー、法村友井ジュニアバレエ団
- 【26日】児童・混合の部=宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ、下田春美バレエ教室、野辺恵バレエスタジオ、麻美バレエランド▽大人の部=高田由紀子バレエ学園、畑節子バレエフォーラム、スズキ・バレエアート・スタジオ

【27日】児童・混合の部＝本田道子バレエスクール、MR B松田敏子リラクゼーションバレエ、K★バレエスタジオ、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所▽大人の部＝地主薫バレエ団、アートバレエ難波津

第64回各流合同茶会(大阪)

事業団主催

初心者でも、各流派のお茶席が楽しめる恒例のチャリティー茶会を、18年3月10、11日、大阪美術倶楽部(大阪市中央区今橋)で開催しました。関西を中心に活動する各流派の茶道宗匠の協力を得て毎年開催している催しで、好天に恵まれ、華やかな着物姿の入場者ら両日延べ5000人が訪れました。



●各流合同茶会の懸釜担当宗匠は以下の通り(敬称略・順不同)

【10日】表千家流＝木村雅基、裏千家流＝杉本宗璋、村司宗弘、武者小路千家流＝木津露真、遠州流茶道＝筭新会、習軒流＝坂田柏苑

【11日】表千家流＝森塚加史、裏千家流＝村上宗秀、武者小路千家流＝佐伯江南斎、藪内流大阪支部五葉会、古石州流＝本庄扇宗、花月菴流大阪支部

◆協賛宗匠

表千家流＝生形貴重、表千家同門会大阪支部、裏千家流＝矢野宗菁、松井宗順、武者小路千家流＝芳野宗春、三宅真翁、藪内流＝随竹庵、宗徧流大阪支部、庸軒流＝柿本梅軒、松尾流＝上西宗慶、松風清社＝泉谷亘風、一茶庵流＝佃一輝

第5回関西学生チャリティー茶会(大阪)

事業団主催

関西の大学茶道部の学生らによるチャリティー茶会を、各流合同茶会と併設して18年3月10、11日、大阪美術倶楽部(大阪市中央区今橋)で開催しました。各大学とも、ふだんは学園祭で茶会を開くなど学内の活動がほとんどで、一般の人にお茶をたてる機会はありません。9月から数回実行委員会を開き、準備を重ねてきました。参加者は延べ400人で、「お点前がきれいで、かわいかった」「季節に合ったお菓子で味もよかった」など好評でした。また、大広間には展観席が設けられ、学生が制作した絵画や書、花が飾られ、ゆったりと鑑賞する来場者の姿も見られました。



●関西学生チャリティー茶会の懸釜大学は以下の通り(順不同)

【10日】表千家流＝関西学院大学、裏千家流＝神戸女学院大学

【11日】表千家流＝関西学院大学、藪内流＝京都女子大学

展観席の作品協力は、関西学院大学の美術部、書道部、いけばな部

第55回チャリティー大茶会(北九州)

茶道裏千家淡交会北九州支部主催 事業団など後援

第55回チャリティー大茶会が9月2、3日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。茶道裏千家淡交会北九州支部の会員によるお点前で、多くの参加者が美味しいお茶とお菓子を楽しみ、茶碗に目を凝らす姿が見られました。50年以上の歴史がある茶会には2日間で約千人が訪れ、秋の訪れを感じていました。後日、収益金の一部55万4855円が当事業団に寄せられました。

杵勝会 第35回歳末チャリティー長唄演奏会(東京)

一般財団法人杵勝会主催 事業団後援

円熟の重鎮から若手まで幅広い層の長唄三味線演奏家が集まる団体「杵勝会」が12月17日、第35回歳末チャリティー長唄演奏会を東京・有楽町朝日ホールで開催しました。収益金から10万円が事業団に寄付されました。

上野学園 第58回慈善演奏会(東京)

学校法人上野学園主催 事業団後援

学校法人上野学園(東京都台東区)の「石橋メモリアルホール」で12月22日、「聖夜の調べ」と題した慈善演奏会が開かれました。シューベルトの「アヴェ・マリア」、グルーバーの「きよしこの夜」といった名曲が、ヴァイオリンやピアノ、オルガンで奏でられました。

集まった25万3491円が事業団に寄せられました。

浦和学院高等学校吹奏楽部 第13回チャリティーコンサート(埼玉)

浦和学院高等学校吹奏楽部主催 事業団後援

さいたま市緑区の浦和学院高校の吹奏楽部が18年1月8日、「第13回チャリティーコンサート」を開き、集まった12万1190円を東日本大震災の義援金として、さいたま総局を通じて朝日新聞厚生文化事業団に寄託しました。

主な後援・協賛・協力事業一覧

(※区分は各事務所受付分)

日程	催事		主催者	会場
本部事務所(東京)				
4/29・30	第22回ウォーキングフェスタ東京 ツデーマーチ	後援	同ツデーマーチ実行委員会	都立小金井公園など 多摩・武蔵野地域
5/3～5	第45回記念日本車椅子バスケットボール 選手権大会	後援	日本バスケットボール協会、日本 障がい者スポーツ協会、日本 車椅子バスケットボール連盟	東京体育館(渋谷区)
5/10	第5回ニューヨーク合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構(JAEXA)	米カーネギー大ホール
6/1～4	第32回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	全日本ろうあ連盟	エルガーホール7階 ギャラリー(福岡市)
6/3・4	第33回DPI日本会議全国集会in京都	後援	DPI日本会議	ホテルルビノ京都堀川 (京都市)
6/9	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	よみうりホール (千代田区)
6/11	日本リウマチ友の会第57回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ホテルグランヴィア 和歌山
6/30・7/1	第66回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	長野市営陸上競技場
7/18～23	第32回療育音楽指導者養成研修	後援	東京ミュージック・ボランティア 協会	新宿、小平ほか
7/28～30	第66回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	駒沢オリンピック公園 総合運動場(世田谷区)
8/4・5	第12回ファミリーホーム全国研究大会 in OSAKA	後援	日本ファミリーホーム協議会 近畿ブロック 大阪大会実行委員会	ホテル阪急エキスポパーク (大阪府吹田市)
8/28～30	第68回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連 盟、全国児童自立支援施設協 会、大阪市	万博記念公園野球場 (大阪府吹田市)ほか
9/15・16	きょうされん第40回全国大会 in 北海道	後援	きょうされん	札幌コンベンションセンター (札幌市)ほか
9/21	日本点字図書館 秋のチャリティー映画祭	後援	日本点字図書館	なかのZEROホール (中野区)
9/23	光バンドチャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル	後援	東京光の家	ひの煉瓦ホール (東京都日野市)
9/24～25	第43回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア 協会	浴風会大ホール (杉並区)
9/25	第54回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビック大ホール (文京区)
9/27～29	第44回国際福祉機器展 H.C.R.2017	協賛	全国社会福祉協議会、 保健福祉広報協会	東京国際展示場 (江東区)
9/28	第47回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会、 日本盲人福祉委員会	弘済会館(千代田区)
9/29～10/1	第42回全日本ろう社会人 軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	サーティーフォー 相模原球場ほか
10/1	第4回高校生手話パフォーマンス甲子園	後援	手話パフォーマンス甲子園 実行委員会	とりぎん文化会館 (鳥取市)
10/17	第29回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール (港区)

日程	催 事		主 催 者	会 場
10/19・20	第10回全国精神保健福祉家族大会 岡山大会	後援	岡山県精神障害者家族会連合会、 全国精神保健福祉会連合会	倉敷市芸文館 (岡山県倉敷市)
10/28	第49回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会(目黒区)
10/29	第64回東京都聴覚障害者大会	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	板橋区立文化会館 大ホール(板橋区)
11/1～3	サイトワールド2017	後援	日本盲人福祉委員会サイトワ ールド実行委員会	すみだ産業会館 サンライズホール (墨田区)
11/3～5	第40回日本スリーデーマーチ	後援	東松山市、日本ウォーキング協 会、朝日新聞社ほか	埼玉・比企丘陵一帯
11/4・5	第23回全国中途失聴者・ 難聴者福祉大会 in 東京	後援	全日本難聴者・中途失聴者団体 連合会	国立オリンピック記念 青少年総合センター (渋谷区)
11/11	第14回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	日本点字図書館 オープンオフィス会場 (新宿区)
11/11	第38回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省、富山県、 日本歯科医師会ほか	富山県民会館 (富山市)
11/22	平成29年度全国社会福祉大会	後援	厚生労働省、全国社会福祉協議会、 中央共同募金会	メルパルクホール (港区)
11/25	第21回全国聴覚言語障害者 福祉研究交流集会	後援	埼玉聴覚言語障害者福祉協会	埼玉県県民活動総合 センター (埼玉県伊奈町)
11/26	交通遺児等親子への精神的支援事業 熱海・海釣りツアー	後援	交通遺児等を支援する会	熱海市
11/30	第15回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート	後援	日本点字図書館	東京文化会館 小ホール(台東区)
12/4～6	第55回弘済学園 わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会、 東京都社会福祉協議会	JR東京駅動輪の広場 (千代田区)
12/15	第66回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、 東京都共同募金会	東京都庁(新宿区)
12/19～24	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋 (中央区)
2/17・18	平成29年度全国手をつなぐ育成会連合 会 事業所協議会全国研修大会東京大会	後援	全国手をつなぐ育成会連合会、 全国手をつなぐ育成会連合会事 業所協議会	ホテルスプリングス 幕張(千葉市)
2/14	日本児童養護実践学会 総会・創立10周年記念大会	後援	日本児童養護実践学会	白百合女子大学 (東京都調布市)
3/2	みんなねっとフォーラム2017	後援	全国精神保健福祉会連合会	帝京平成大学・冲永 記念ホール(豊島区)
3/3	メンタルヘルスの集い (第32回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール (千代田区)
3/3・4	第63回「耳の日」記念行事	後援	一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日ホール (千代田区)ほか
大 阪 事 務 所				
通年	平成29年度「地域保健福祉研究助成」 「ボランティア活動助成」	後援	公益財団法人 大同生命厚生事業団	
2017年4月 ～2019年3月	第53期 電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年 センターなど
4/6・7	西陣工房オープンデー	後援	特定非営利活動法人 京都西陣会	就労継続支援B型事 業所 西陣工房

日程	催事		主催者	会場
4/20～ 4/22	バリアフリー2017(第23回)	後援	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会・ テレビ大阪・テレビ大阪エクスプロ	インテックス大阪
4/23	第35回日本ライトハウスチャリ ティーコンサート	後援	社会福祉法人 日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
5/28	第24回共生・共走リレーマラソン	後援	共生・共走リレーマラソン実行委員会	花博記念公園・鶴見緑地
6/3	共に生きる21	後援	「共に生きるコンサート」 実行委員会	箕面市立メイプルホール 大ホール
6/3・4	第12回堺ツーデーマーチ	後援	堺ツーデーマーチ実行委員会 (堺市・日本ウォーキング協会・ 朝日新聞社ほか)	堺市全域
6/11	第2回「茶の湯文化にふれる市民講座」	後援	表千家同門会大阪支部	関西大学 梅田キャンパス
6/25	第24回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障がい者ス ポーツセンター 体育室
7/4・5	第67回近畿児童自立支援施設野球大会	後援	滋賀県、近畿児童自立支援施設協 議会	甲賀市民スタジアム、 甲賀市立信楽運動公園
7/15	福祉の就職総合フェア2017 in OSAKA	後援	大阪府	インテックス大阪2号館
7/17・23・ 29・30	平成29年度 障がい児育成教育指導者養成講座	後援	一般財団法人 子供の城協会	公文教育会館 5階会議室
8/1～6	第38回「子どもたちの讃歌」展	後援	大阪府教育委員会・大阪市教育 委員会・大阪特別支援教育諸学 校造形教育研究会	大阪市立美術館 地下展示室
8/4	第67回施設従事者激励会	後援	一般財団法人 大阪民間社会福 祉事業従事者共済会	新歌舞伎座(大阪市)
8/7～12	第34回土と水と緑の学校	後援	公益社団法人アジア協会アジア 友の会	和歌山県新宮市 高田地区一帯
8/8～9/8	第3回全日本若手障害者リーダー育成留学 “ターニングポイント@RYUGAKU”	後援	特定非営利活動法人メインスト リーム協会	明石市、西宮市、 アジア各国
8/18～20	吃音親子サマーキャンプ (2017年度)	後援	サマーキャンプ実行委員会・ 日本吃音臨床研究会	滋賀県彦根市 荒神自然の家
8/20	全国遷延性意識障害者・家族の会関西 ブロック講演会	後援	全国遷延性意識障害者・家族の 会関西ブロック	日本生命神戸支社 13階会議室
8/27	第58回大阪知的障がい者福祉大会	後援	社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 大阪ともたちの会 大阪手をつなぐ育成会北河内ブロック	大東市立文化ホール サーティホール
9/23・ 10/7～9	自閉症の子どもキャンプ 「のびのびキャンプ」	後援	公益財団法人 関西テレビ青少年育成 事業団、特定非営利活動法人 アサヒ キャンプ、一般財団法人 大阪府青少 年活動財団(ユースサービス大阪)	吉野宮滝野外学校
10/14	第53回肢体不自由児者を支援する チャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会 連合会	オーク200 2Fアトリウム
10/14・15・ 21・22	第36回スポーツフェスタ2017大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	ヤンマースタジアム長居 (長居陸上競技場)
10/22	第45回全大阪ろうあ者文化祭	後援	公益社団法人大阪聴力障害者協会、 大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障がい者 スポーツセンター
10/15	第23回大阪YMCAインターナショナル・ チャリティーラン2017	後援	大阪YMCA、ワイズメンズクラブ 国際協会西日本区阪和部・中西部	大阪市花博記念公園 鶴見緑地けやき通り南西側
10/15	ファインエリアフェスティバル2017	後援	ファインエリアフェスティバル 実行委員会	大阪府立障がい者 交流促進センター (ファインプラザ大阪)
10/28	素のままフェスタ2017	後援	素のままフェスタ実行委員会	豊中市立アクア文化 ホール

日程	催事		主催者	会場
11/14	第18回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	「太閤園」迎賓館3階 ダイヤモンドホール
11/17	平成29年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター・大ホール
11/18	平成29年医療社会事業従事者講習会	後援	特定非営利活動法人 大阪医療ソーシャルワーカー協会	シキボウホール7階 大ホール
11/20	若さの栄養学 秋の講演会	後援	一般財団法人 若さの栄養学協会	大阪産業創造館6階
2018年1/7	第38回みんなでつくるコンサート	後援	みんなでつくるコンサート実行委員会	西宮市ブレラホール
1/19	平成29年度「福祉の就職フェアSPRING in 大阪」	後援	大阪府	大阪市総合生涯学習センター
1/19～23	第37回障がいのある子どもに学ぶ図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任社会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
2/15～17	2018国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会	後援	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟、社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会、大阪市	大阪市中央体育館
2/24・25	TEACCHコラボレーションセミナー	後援	TEACCHプログラム研究会	京都烏丸コンベンションホール
2/25	安心して長期療養ができるように！ 難病患者の医療・福祉を考える 府民のつどい	後援	大阪府、特定非営利活動法人大阪難病連、大阪難病相談支援センター	エル・おおさか5階研修室2
3/4	認知症講演会	後援	公益財団法人大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター5Fライフホール
3/3	こころがシンドイときシリーズ27「不眠症ゼミの嘆き」	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	大阪市立総合生涯学習センター
3/16～ 2019年4/11	世界ダウン症の日写真展 in 大阪 2018	後援	日本ダウン症協会 大阪支部	大阪市立中央図書館1階 エントランスホールギャラリー
西部事務所				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（年に数回予定）	後援	西日本カラオケ連合協議会	北九州市内の生涯学習センターなど
4/9、7/9、 8/20	第7回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡県・大牟田市延命球場ほか
5/14	第55回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか	北九州市立本城陸上競技場ほか
5/20	第35回北九州精神障がい者家族会連合会総会及び記念講演会	後援	北九州精神障がい者家族会連合会	あかつき会「さんらいす小芝」事業所
6/6～11、 6/14～19	第52回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本県・鶴屋百貨店
7/14～17	第38回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/10～12	第62回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/8、10/22	第54回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	北九州市障害者スポーツセンターほか
11/10～ 12/10	第65回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など 福岡県内主要都市
11/19	平成29年度ひとり親家庭・寡婦のふれあいスポーツ大会	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市立浅生スポーツセンター

日程	催事		主催者	会場
3/5～11	第36回肢体不自由児・者の美術展	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市役所ほか
名古屋事務所				
4月～10月	第69回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	NHK名古屋放送局センタービル
4/9	第37回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	瀬戸市民公園ほか
4/15～5/28	平成29年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋・星ヶ丘ボウルほか
4/25～11/19	第14回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	パロマ瑞穂スタジアムほか
5/18～20	第20回国際福祉健康産業展～ウエルフェア2017～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/18	第55回心身障害問題を考える集い	後援	社会福祉法人あさみどりの会	愛知淑徳大学記念会堂
7/9	第34回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	名古屋学院大学
7/21～8/17	第34回福祉施設絵画展	後援	名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	セントラルパーク市民ギャラリー(名古屋市中区)
8/11～16	第34回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会親の会ほか	岐阜県恵那市・割烹民宿「おおくら」
8/17～23	第32回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	三重県立鈴鹿青少年センター
8/18～23	第45回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	蒲郡ホテル別館
9/10～12/10	第65回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
10/1	第45回医療講演会	後援	三重県重症心身障害児(者)を守る会	三重北勢地域地場産業振興センター(四日市市)
10/7	生き生き長寿フェア2017「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園(大府市、東浦町)
10/15	第41回'17愛のフェスティバル	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館
10/19	第65回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
11/19	第62回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市昭和 문화小劇場
12/3	第57回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会ほか	日進市民会館
1/20	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	今池ガスホール(名古屋市千種区)
2/10・17	平成29年度知的障害者支援者養成講座	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館
2/6～12	第52回名古屋市障害者作品展示会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館
3/4	第36回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い	後援	愛知県聴覚障害者協会	知多市勤労文化会館

チャリティー美術展に出展いただいた皆さま

(50音順、敬称略)

【日本画】

(あ行)

青山博之	秋本幸一	朝比奈陽心	阿部穰	荒井孝	新井陽子	安藤徹	池田夏乎
石踊紘一	石踊達哉	石崎昭三	石田幸誠	石塚青篁	泉東臣	板垣青仁	市川保道
市野晴美	市橋豊美	伊藤正男	犬飼白龍	井上耐子	井上北斗	猪熊佳子	今井武久
岩田三枝	岩波昭彦	植田清子	上村淳之	鵜飼千佐子	白井治	内田広己	鳥頭尾精
梅原幸雄	梅村愛	江川照美	蝦名芳枝	大島亜弓	大嶋英子	大竹紫水	大塚千聰
大月紅石	大野廣子	大矢時保	大矢十四彦	大矢紀	大矢眞弓	岡信孝	小川国亜起
小川佳浩	小倉理山	落合初美	折式田生子				

(か行)

春日あけみ	加知満	加藤恵	加藤美恵子	鎌田紀子	上村俊明	亀山玲子	川合和子
河合重政	川崎マリ子	川島睦郎	河村沙希	河本正	川本淑子	菅かおる	神林久子
菊池治子	岸野圭作	木村英史	木村光宏	金原保則	久芳道信	久保嶺爾	倉島重友
倉田富美	倉地千枝子	栗原幸彦	黒光茂明	小泉智英	上泉蘭一良	香野ルミ子	国府克
小島光径	後藤順一	後藤紳也	小林濟	小林裕子	小林正直	小林六博	

(さ行)

斉藤和	斎藤宗	坂井昇	坂元洋介	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明	佐治満澄
佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	澤山輝彦	椎名保	重岡良子	品川成明	島次逸郎
清水史郎	清水信行	清水操	霜鳥忍	杉谷彩光	杉山律夫	鈴木紀和子	鈴木竹柏
鈴木至夫	染谷聡之						

(た行)

高越甚	高橋新三郎	高橋浩規	田口愛子	武市齊孝	武田州左	田島奈須美	田代邦子
辰巳寛	伊達良	田中重造	谷井恵紅	谷口蕙香	田宮栄子	田村仁美	月居和子
土屋雅裕	角田範子	道家珍彦	戸田みどり	殿南直也	鳥垣英子	鳥山武弘	

(な行)

中岡友子	中川脩	長崎莫人	中島潔	中島千波	中嶋虎威	永田実子	中谷温男
中庭隆晴	中野貴雄	中野嘉之	中村宗弘	永森一郎	名古屋剛志	那波多目功一	
仁木寿美子	西岡信子	西野陽一	西松凌波	西村勝廣	西村光人	西山英子	西脇繁華
沼本三郎	野原真澄						

(は行)

長谷川郁子	長谷川雅也	長谷川喜久	服部倫子	服部誠子	浜上俊和	濱田昇児	浜田泰介
林真	林孝彦	林田啓江	林美枝子	日置宏輔	日比野光雄	平岩洋彦	平尾秀明
福本百恵	藤井康夫	藤原祐寛	二川和之	紅山幸水	堀川えい子	本間正英	

(ま行)

前島恵里乃	前田龍一	間瀬静江	町田泰宣	松生歩	松木秋佳	松下明生	松下勝正
松原秀伸	松村公嗣	松室加世子	松本勝	真野尚文	三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍
水江東穹	水谷勝子	水野收	三谷青子	三宅和光	宮崎観峰	宮野孝司	宮本脩子
宮本和胡	三輪晃久	村井玉峰	村田晴彦	森田りえ子	森英明		

(や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	柳沢正人	山口溪華	山口義明	山下まゆみ
山本しず子	山本真一	山本真也	山守良佳	吉岡三樹子	吉田祥子	吉田舟汪	

(わ行)

和田洸珀 和田利造 渡辺章雄 渡邊幸子

【洋画】

(あ行)

青江健二 青木今陽 赤塚一三 浅井清貴 浅井義弘 麻田博子 浅村理江 遊馬賢一
 東弘孝 安達康夫 阿野義久 阿部晴美 安部英夫 天野吉則 荒井孝 安藤公一
 飯田道嗣 池田くみ子 池田清司 池田清明 池田洋子 憲俊彦 井阪仁 石川世始子
 石阪春生 石田聖子 石根三千代 石野容三 石橋武夫 石原ミチオ 居島春生 磯崎みちる
 板垣千鶴子 板倉美智子 伊丹重男 市村一 井手典子 伊藤郁 伊藤和義 伊藤清和
 伊藤五郎 伊藤純子 伊藤隆 伊藤秀男 伊東博子 伊藤弘之 伊藤文男 井藤雅博
 伊藤康夫 稲垣考二 稲垣龍雄 井上慎介 井上利哉 井上よう子 井口由多可 今関アキラコ
 今村价男 入江観 岩崎雄造 岩田視司 岩田知幸 岩谷康世 岩淵晃三 岩本かずえ
 イ・ワヤン・シーラ 植木美代子 上嶋スミコ 上田真澄 植月正紀 上野憲一 上野千代子
 臼井恵之輔 宇田喜久子 宇野孝之 宇野義行 生方純一 梅村徹 栄永大治良 江上寿夫
 榎本多恵子 江本繪門 遠藤彰子 王前一馬 大石つね子 大川浩市 大口邦子 大島幸夫
 大谷哲生 大津英敏 大西生余子 大野国光 大渕繁樹 大見伸 大森祥吾 大森良三
 大山富夫 岡貞徳 緒方洪章 岡田全良 岡千秋 岡宏 岡本正尹 岡義実
 小川幸紅 小川リエ 沖田廉平 沖中勝則 奥田喜一 納健 小澤一正 小沢眞弓
 小田島えい子 織田義郎 乙丸哲延 小野仁良 小野知久 面矢元子 折本美祢子

(か行)

加古千恵子 笠井誠一 梶浦寿布 計盛健次 片山弘明 勝呂隆光 加藤助八 加藤千太郎
 加藤トオル 加藤信子 加藤吉春 金井順子 金丸悠児 壁下孝 上所幹彦 カヤガキ久子
 加覧裕子 川井一義 河野宗之蒸 川原比瑠子 河村斜世子 菊地正男 菊地洋二 喜澤のり子
 岸田淳平 岸田夏子 岸野昭 木谷利江 北見隆 北村美枝 橘田政明 木寺淳二
 鬼頭恭子 絹谷幸二 木下實之 樹林雅生 木村信之 木村正志 木村優博 木脇康一
 草壁隆 草野直己 久世瑠璃 久野和洋 久保輝秋 倉田政子 倉持正 栗田政勝
 黒川彰夫 黒木郁朝 黒木トシ子 黒木雅彦 黒沢信男 黒田秀方 黒田富紀子 黒田勝
 黒柳弘行 桑島春彦 小池かよ 小泉元生 小泉守邦 甲谷武 河本和子 五島まさを
 小瀬垣宏郎 小林千枝 小林英且 小林雅英 小林裕児 小柳晟 小柳景義 小柳幸代
 小柳吉次 小山オサム 近藤昭彦

(さ行)

斎藤孝弘 斎藤千川予 斎藤由比 佐伯浩 酒井章帆 沙海苑子 酒井英利 坂口紀良
 坂本泰漣 坂本よしこ 櫻井孝美 桜井陽彦 櫻井幸雄 佐光亜紀子 佐々木馨 佐崎紘一
 佐藤一成 佐藤泰生 佐藤富美子 佐藤義光 佐野千津子 猿渡士郎 塩川佑子 四方道夫
 七里和子 芝田キク 芝芳雄 嶋谷卓之 嶋谷美鈴 島田安雄 嶋津俊則 島村信之
 清水亟悞 清水鉄彌 清水佳子 下園由莉 白川順子 白山扶士子 水藤澄子 杉田明維子
 杉本澄男 杉山英子 鈴江章郎 鈴木貞子 鈴木年 鈴木延雄 瀬下ゆり子 相馬貞夫
 園山幹生 祖父江弘幸

(た行)

醍醐イサム 大門正忠 高松政子 滝沢直次 滝滋 瀧田依子 宅田正正 竹内喜久江
 竹内重行 竹内靖夫 竹生節男 竹下功 竹中稔量 竹原邦樹 多田晴義 楯岡和子
 田中敏夫 田中仁士 田中良 谷川泰宏 谷本暁雄 タマカワ千恵 中條健史
 塚田清 津川純子 津田勝利 堤慶 鶴房健蔵 鶴見雅夫 鶴山好一 出口修

寺沢順子 (な行)	土井邦晃	戸狩公久	戸高明義	富澤尚美	富田伸介	友成晴雄	
永井夏夕	中井史郎	長井宏之	長尾浩一	長澤すみ江	中島千恵	中島裕司	中嶋美瑛子
中田順	中谷健三	中西文彦	中西良招	中野治朗	中野洋一	中村英	中村輝行
中村光幸	中村實	那須ゆいか	生井京子	檜崎重視	名和智明	仁木雅子	
西井義晃 (故人)		西澤知江子	西田藤三郎	西野一郎	西村純子	西村壽郎	西山徹
新田ゆき子	丹羽直子	沼尾雅代	根萩斎門	ノブ・サチ	野村亜紀子	ノムラカツキ	
乃村豊和 (は行)							
萩原栄文	長谷岩友	馬場一郎	濱田進	濱田弘康	濱本恵一	早川勝	林孝三
原田たかし	原尚子	原秀樹	半澤満	平井智子	平尾倫子	平野昭子	廣岡清武
広瀬範	広田和典	深津静男	福岡幸子	福岡通男	福原満江	福満よさ美	藤田慶次
藤浪成喜	藤本正男	藤森悠二	布施久美子	ブライアン・ウィリアムズ			別府忠雄
帆足ゆり	保ヶ淵静彦	保科浩一	細川進	堀井克代	堀尾一郎	堀博喜	本多しづ子
本田真貴 (ま行)	本間千恵子						
前川雅幸	楨利光	牧野美代子	正木茂	柁木高	マサルW	増本憲樹	松浦正博
松浦安弘	松田貴美子	松永知久	松原政祐	松村和紀	松室重親	三浦勉	三木義尚
三塩清巳	水野伊津子	源尊磨	三栞明子	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉	宮本裕之
宮山博司	村井成好	村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫	村田知子	村山容子
森勇	森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森長武雄	森文男	森本計一	森本有一
(や行)							
八木時子	安井啓二	安井正子	安居素子	安富信也	安福葉子	柳田晃良	柳瀬俊泰
柳瀬雅夫	藪崎昭	藪野健	山口静治	山口隆夫	山口ひろみ	山口美佐子	山下恒子
山下毅	山下徹	山田精一	山田嘉彦	山手正彦	山中のり子	山本亞稀	山本悦子
やまもと悦子		山本澄江	山本虎雄	横井三郎	横山申生	横山了平	吉岡耕二
吉城弘	吉田清光	吉田淳一	吉田敏男	吉田緑	吉野清	吉村美令由	米田整弘
余村展 (わ行)							
若麻績敏隆	わたせせいぞう		渡辺宏	渡辺正夫	渡邊妙法	渡辺良一	渡部香
渡紀美子							

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	粟生屋東洸	青山双溪	青山鉄郎	赤毛敏男	秋野宏和
浅井秀子	浅蔵五十吉	浅原千代治	足利直子	東正之	与勇輝	安達章	安達雅一
新歓嗣	雨宮弥太郎	荒井さつき	有生礼子	有松進	有本空玄	安藤栄子	安藤敏彦
安藤則義	安藤日出武	安藤博允	安藤友紀	安藤良輔	飯沼耕市	井尾建二	池田珪子
石井視子	石田征希	石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳	伊勢崎創	市川清鱗	市川博一
市川正美	市野悦夫	市野勝磯	市野元和	市野信水	市野哲次	市野雅彦	市野正大
市野勝	一宮現	一宮侑	糸井康博	伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤秀人	伊藤優
伊東祐一	伊藤雄志	伊藤渡	稲垣天津男	稲荷作	井上春峰	井上萬二	井上康德
井上楊彩	今泉今右衛門		今井眞正	今井政之	今西方哉	伊村徳子	井村まゆみ
岩瀬健一	岩瀬弘二	岩田溪山	イワタルリ	上江田ひとみ		植田豊弼	上中剛司
浮田健剛	後田和孝	内野薫	内野都	内堀敏房	内村壯之介	内村幹雄	内村由紀
内山政義	浦上光弘	浦口雅行	うら林あきお		永樂善五郎	大泉讚	大角裕二
大上巧	大河内泰弘	大川正洋	大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大城一夫
大須賀選	大角幸枝	太田和明	大谷昌拡	太田貢	大塚誠一	大塚雅淑	大槻昌子
大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和齋	大野誠二	大橋聰子	大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳
大樋長左衛門		大樋陶冶齋	大平和正	大平孝昭	岡崎幸徳	岡澤伸之	岡田崇人
小形こず恵	岡田親彦	岡田春海	岡田泰	岡田裕	岡本篤	岡本白水	岡本碧山
小川真之助	小川長楽	荻原毅久	奥村公規	奥村繁豊	奥山峰石	小倉健	小椋範彦
桶谷洋	尾崎高行	小畑裕司					

(か行)

角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	加古勝己	加古若菜	鹿島和生	梶原茂正	片山雅博
勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	加藤永司	加藤錦雄	加藤錦三	加藤溪山
加藤圭史	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤惇	加藤春定	加藤眞也	加藤地彩	加藤委
加藤唐三郎	加藤土代久	加藤真雪	加藤美土里	加藤陽児	加藤嘉明	加藤亮太郎	金子信彦
金重晃介	金重潤平	加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	亀井幸一	亀井勝	加守田太郎
川井明子	川井明美	河合竹彦	河井敏孝	川合正樹	川上力三	川北浩彦	川北良造
河口純一	川口清三	川口保規	川手敏雄	川端近左	川端文男	川淵直樹	神崎継春
神崎正英	神戸義憲	菊池拳子	北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北野勝彦	北村堅治
北村英昭	吉向孫斎	絹谷幸太	木村玉舟	木村素静	木村展之	木村表恵	木村盛康
九世吉向松月		清水六兵衛	工藤和子	久野勝生	熊沢文太	熊本栄司	黒岩達大
黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	桑原みさ雄	鯉江廣	小出芳弘	厚東孝明
神山清子	神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小島直喜	小峠葛芳	小西陶蔵
小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小橋川太郎	小林一雄	小林一富美	小林哲也	小林浩
小林貢	小林勇超	小林淑郎	小林理恵	小南吉彦	小牟禮尊人	小森邦衛	小谷内和央
小山貴由	近藤精宏	近藤裕久	今野春雄				

(さ行)

斎木勲	斎藤裕子	西念秋生	酒井甲夫	酒井田柿右衛門		坂井教人	酒井博司
榊原啓司	榊原勇一	阪口浩史	坂手春美	坂本俊人	佐久間藤也	佐々木厚	佐々木省庵
佐々木二郎	佐々木苑子	佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子		佐々木禅	佐竹清光
佐藤和彦	佐藤苔助	佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐野寛	寒川栖豊
寒川義崇	沢田重雄	澤田利光	沢田豊山	篠崎英明	柴岡信義	柴田厚志	柴田雅章
島岡桂	島田耕園	島田緋陶志	島田文雄	清水潮	清水潤	清水醉月	清水剛

清水千代市	清水俊彦	清水万佐年	志村洋子	祝嶺恭子	庄村健	白武初芳	城間栄順
新庄貞嗣	新谷一郎	水津和之	杉江善次	杉本貞光	杉山ひとみ	鈴木藏	鈴木環
鈴木五郎	鈴木三成	鈴木爽司	鈴木大三朗	鈴木富雄	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山
関守高	瀬津純司	曾我阿嬉子	十河慶子				
(た行)							
高岡久美子	高木廣司	高橋彰	高橋直樹	高橋楽齋	高原卓史	高見勝代	滝口和男
瀧澤利夫	武石和春	竹内真吾	竹内眞三郎	武腰敏昭	武田敏男	竹西予州	竹之内彬裕
武村豊徳	竹村繁男	多田幸史	田中忍	田中清山	田中源彦	田中悠子	棚橋淳
田辺竹雲齋 (四代)		谷川仁	谷口幸二	谷口正典	谷清右衛門 (五代)		谷野明夫
谷本あけみ	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉村松月	力石俊二	沈壽官	塚原三千勝
塚本治彦	塚本満	築地久弥	辻聡彦	辻常陸	土谷道仙	土田半四郎	土屋典康
土屋順紀	筒井修	都築青峰	恒岡光興	鶴田明子	出口清廣	寺田みのる	寺本守
天坊昌彦	徳川浩	徳田明美	徳田八十吉	豊住和廣	豊場惺也	豊本信子	
(な行)							
長江哲男	中尾彰秀	中里太郎右衛門 (十四代)	中里壽	中島翁助	中島卓	中嶋武仁	
中嶋虎男	中島保美	中條伊穂理	永末修策	中田一於	仲田錦玉	中塚佐一	長戸純子
長戸裕夢	中根櫻龜	中根秀介	中野亘	中村眞一	中村豊	名倉鳳山	新里明士
新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武	西尾茂	西尾瑞舟	西尾武人	西川勝
西川實	西功一	西田真也	西端正	西端春奈	西村松逸 (優)		西村直城
二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野崎賀代子	野嶋峰男	野田東山	野村絵梨花	
(は行)							
橋爪靖雄	橋本昇三	蓮善隆	長谷川文陽	波多野善藏	波多野英生	羽田登	波多野正典
麦畑耕生	花輪滋實	羽石修二	馬場弘吉	羽原一晃	浜田英峰	濱中月村	早川嘉則
林慶六	林健人	林正太郎	林寧彦	林亮次	原田拾六	ピーター・ハーモン	
東田茂正	東直人	樋口雅之	久田邦男	樋上千哲	平野祐一	平野由佳	廣澤益次郎
広沢葉子	裕人礫翔	深石美穂	深川巖	福井由美	福岡琢也	福島善三	福島武山
福田参平	藤井敬之	藤岡香奈子	藤田潤	藤平寧	藤村州二	藤本智弘	冬柴文廣
古堅幸雄	古田好孝	古谷徹	古家喜義	帆足まおり	星野友幸	堀田博門	堀川十喜
堀俊郎	堀野証嗣	堀龍太郎	本郷大田子	本多亜弥			
(ま行)							
前田泰昭	前端春斉	味舌隆司	眞清水藏六	松井康陽	松尾潤	松吉	松崎健
松嶋弘	松田苑子	松林正人	松村仁団望	松本勝哉	松本尚	松本達弥	松本政昭
松本正雄	松本良夫	丸田延親	三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野鉦一	水野教雄
水野真澄	溝上藻風	三ツ井詠一	美藤康夫	皆川隆	南絢子	宮川香雲	宮川香齋
宮川弘尚	三宅織部	宮田亮平	宮地生成	宮地陶博	宮原隆次	宮本直樹	宮本茂利
美和隆治	向山文也	村井一郎	村上東市	村越風月	村瀬玄之	村田肇一	村山明
室瀬和美	モーガン・ルイス		森一蔵	森伊呂久	森一洋	森勝資	森克徳
森里秀夫	森大雅	森田芳伯	森陶山	森本英助	森泰司		
(や行)							
屋我平尋	屋我優人	安田道雄	安田れい子	矢内齊	柳河瀬しのぐ		柳橋修二
山内厚可	山岡公彦	山岡宏子	山岸大成	山口堅造	山口貞子	山口宏夢	山口真人
山口みちよ	山路和夫	山田耕作	山田孝藏	山田孝三	山田晋一郎	山田進二	山田正博
山田みどり	山田義明	山近泰	山出勝治	大和努	大和保男	大和祐二	山中辰次
山本出	山本象成	山本眞輔	山本拓男	山本秀吉	山本雄一	山本竜一	湯村京子

横山尚人 好本敦郎 (わ行)	吉賀将夫 好本宗峯	吉川千香子 吉本正	吉川正道 米田和	吉田真人 米田萬太郎	吉田美統	吉田喜彦	吉富文代
若尾経 渡辺琢哉	若尾圭介 和田一人	若尾利貞 渡仁	脇田宗孝	脇本定三	湧田弘	渡辺松華 (礼而)	

【版画】

(あ行)

安東菜々	池上壮豊	井上勝江	尾崎斎晃	小原喜夫	園城寺建治
------	------	------	------	------	-------

(か行)

片山誓泉	河内成幸	木嶋ちさ加	木村秀樹	日下里美	國安珣琥	古賀章	小崎侃
------	------	-------	------	------	------	-----	-----

(さ行)

サイトウ良	桜井貞夫	塩田みはる	志野和男	須田敏夫	世古剛
-------	------	-------	------	------	-----

(た行)

高部多恵子	田中喜一	辻憲	鶴岡さゆり	富田文雄
-------	------	----	-------	------

(な行)

中林忠良	野田哲也	乗兼広人
------	------	------

(は行)

浜田浄	原三佳恵	二見彰一	船坂芳助	星野美智子	堀江良一
-----	------	------	------	-------	------

(ま行)

増田陽一

(や行)

山本桂右	山本光生	吉田賢治	吉田正樹	米倉泰民
------	------	------	------	------

(わ行)

渡辺達正	渡会純价
------	------

【書】**(あ行)**

浅井機山 綾村捷子 新井光風 飯高和子 池田桂鳳 石本法子 江口大象 大石三世子
 岡美知子 尾崎邑鵬

(か行)

加賀山香尚 檜本桑牛 杭迫柏樹 黒田賢一 小島寿 後藤汀鶯 小伏竹村

(さ行)

佐藤煒水 師村妙石

(た行)

竹中青琥 田中光穂 鼓芳石

(な行)

中川裕皓 中村秀峰

(ま行)

増永広春

(や行)

山添鼎石

(わ行)

渡邊笙鶴

【著名人・漫画家・イラストレーターほか】**(あ行)**

藍弥生 浅田次郎 浅野ひさよ 有馬頼底 安齋肇 安藤忠雄 池井戸潤 石田隆
 市川右團次 市田ひろみ 井筒啓之 糸井重里 稲畑汀子 上野道善 上村貞郎 内城葉子
 宇野亞喜良 江上泰山 蛸原あきら 王貞治 大野玄妙 小倉宗俊 小澤一雄

(か行)

片山治之 かわぐちかいじ 川津祐介 きたざわけんじ 北見けんいち
 きむらゆういち 清原なつの 黒井健 河野太通 小島万里子 小林太玄

(さ行)

さいとう・たかを 酒井駒子 狭川宗玄 佐々木啓子 佐藤邦雄 三遊亭円楽
 ジェームス三木 下瀬翠 宿輪貴子 鈴木英人 瀬戸内寂聴 千玄室 千宗左
 千宗室 千宗守 ソリマチアキラ

(た行)

高田明浦 高橋真琴 多川俊映 田代卓 立本倫子 谷川浩司 ちばてつや 中条春野
 趙治勲 辻和雲 唐仁原教久

(な行)

永井ひろし 中原誠 中村芝翫 中村橋之助 中村福之助 中村愛之助 中村歌之助 鯉江光二
 成瀬國晴 野村俊夫

(は行)

萩尾望都 長谷川大眞 長谷川義史 羽生善治 はまのゆか ばんば三郎 日野西光尊
 藤子不二雄[Ⓐ] 古川タク 堀江滌子

(ま行)

前川しんすけ
松長剛山 松本白鶴
マツモトヨーコ
みずうちさとみ
三好貴子 美輪明宏
モンキー・パンチ

前田昌道 松浦俊海
松本幸四郎 市川染五郎
松本零士 美樹本晴彦
水谷八重子 水戸岡鋭治
村上康成 森清範

(や行)

やくみつる 八代亜紀
矢吹申彦 山口哲司
やよいとしん
蓬田やすひろ

安井寿磨子 安彦良和
山口はるみ 山口マサル
吉田桂子

【ジオラマ展】

あいさわかずこ
奥川泰弘 川田崇司
西村慶明 はがいちよう
宮下洋一 諸星昭弘

浅木紳士郎 池田邦彦
坂本憲二 佐藤千寿子
山尾比呂士 山田卓司
深津千恵子

芸術から広がる支援
開催要項
4月6日(金)〜9日(月)、東京都中央区有明3-8-6 朝日ホールAホールにて、有明3-8-6ビル5階(12日までの開催)
【出品】 4月5日(木)午後3時から、入館は5日(金)17時まで
【観覧料】 当日1000円、当日1500円、当日2000円、当日2500円
【入館時間】 朝日ホール: 9時〜17時、朝日ホールAホール: 10時〜17時
主催: 朝日新聞社文化事業部(担当: 杉山 大輔)
共催: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
協賛: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
後援: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
協賛: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
後援: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社

支え合いの心 1000点
朝日チャリティー美術展 12月8〜10日 名古屋・栄の丸栄
寄せられた主な作品
人札 9日午後5時まで
12月8日(土) 10時〜17時、12月9日(日) 10時〜17時、12月10日(月) 10時〜17時
朝日新聞社文化事業部(担当: 杉山 大輔)
共催: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
協賛: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
後援: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社

寄り添う1200点
寄せられた主な作品
12月8日(土) 10時〜17時、12月9日(日) 10時〜17時、12月10日(月) 10時〜17時
朝日新聞社文化事業部(担当: 杉山 大輔)
共催: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
協賛: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社
後援: 朝日新聞社文化事業部、朝日新聞社

ご寄付をいただいた皆さま

2017年度に全国の皆さまから当事業団に寄せられたご寄付は、総額2億947万2433円にのぼりました（当事業団の東日本大震災救援事業への寄付を含む）。当事業団の活動に賛同して下さる皆さまをはじめ、朝日新聞読者、企業、団体、グループ、学校など、多くの方々が私どもを寄託先として選んでくださいました。また、近年は香典返しや遺贈の送り先に当事業団をご指定いただくことも増えてまいりました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志はこの事業報告で紹介している、さまざまな福祉事業に充てております。今後ともご支援、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

ご寄付いただいた皆さまは次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は、匿名希望の方とともに省かせていただきました。

- ▼北海道：荒井道夫、井上國男、石川義昭、石橋昭二郎、伊藤哲・キン、伊藤美智子、大谷隆夫、加藤佳夫・多満喜、河内公子、川端暢文、菊池まり子、北間政美、熊谷恒子、児玉ゆみ子、坂井洋一、桜井智康、佐竹永吉・紀美子、佐藤健二、沢口光夫、清水隆、清水美智子、社本好明、東海林勝子、東海林昇、鈴木秋雄、須田勇、高木昭一、竹原三哉、田島優、田中志津子、玉置三緒、二階堂敏子、浜島泉、番場典子、東洋子、広瀬正文、藤田晃三、宮地迪彦、森千草、山崎悦子、山崎等、山崎洋子
- ▼青森県：清野俊晃、佐藤實、佐藤祐逸
- ▼岩手県：飯島仁、石川洋子、石田裕子、小川浩彦、梶谷裕子、小金森勝治、筑後好江、宮沢新聞店、山形ルリ子、山口光枝、和田演郎
- ▼宮城県：安部一美、石川文彦、霧島酒造、佐々木潔、鈴木慎二、棚橋昌子、寺山功、引地重夫、日野克美、藤岡卓、松川勝、三浦莞爾、三浦七郎、吉田正子
- ▼秋田県：飯塚春美、飯塚久雄、大内源太、菅原芳徳、須藤礼次、高橋正喜、鶴田貢
- ▼山形県：遠藤國勝、今野友子、佐藤玲子、島津博達、成田政右衛門、南間富紀子、布川久美子、本庄航也・兼也、本間テツ子、松尾美代子
- ▼福島県：阿部勇、阿部正行、浦山利次、ASA会津若松、ASA福島北部、河合新聞店、櫻井隆繁、高橋隆、西山昭芳、馬場吉一、樋口勇、星熊雄、星康生、三森タイ子、村山惇樹
- ▼茨城県：相川俊明、飯竹一広、石崎廣勝、大石多津子、大村三樹男、岡山伸一、奥村健二、鬼澤薫、粕谷日出夫、鎌田昭夫、川島房宣、菊地武、工藤義亮、窪田敏廣、栗山歌子、小久保憲宏、後藤泉、小林栄喜、古林グラッセ、駒井英子、さくら企画、佐藤忠夫、佐藤正喜、柴田多恵子、鈴木弘康、中華料理味菜、寺澤真由美・薫子、根本承次郎、根本龍司、野口勇、林誠一、広瀬英貴、藤田正三、星野秀雄、宮崎千勝、樺山診療所、吉松賢太郎
- ▼栃木県：青木敏雄、縣君子、荒井俊邦、新井正男、石川幸男、大塚博、鎌田正信、木村克二、佐藤勉、塩野谷信夫、添谷文子、滝童内のり子、手塚正志、日光市御幸町商店会、二渡芳雄・賀代子、白鷗大学足利高等学校、林良郎、原喜久子、平野敬、福田仁、松永俊明、矢野正義・みゆき、矢作喜久夫、湯浅末吉
- ▼群馬県：内田由喜江、大澤誠、岡田恒宏、小川新一郎、金井恭子、金井清、金子幸江、静雅彦、清水昭夫、清水明貞、下城啓年、鈴木悠紀子、田中初恵、永島勇、花岡卓二、森秀子、矢作正夫、山口保、山田順子、山丸幸子、吉田由美子
- ▼埼玉県：相原幸子、青木克美、浅見廣郷・時江、落合勝安・一江、有田晨文、五十嵐隆治、飯島進、石井康雄、石井喜代、石川潤、石川房子、石村てる江、石山正明、泉英雄、市川圭子、伊藤操子、伊藤恵・和子、伊藤ゆり子、伊東亮太郎、井上桂子、猪俣眼科医院、岩永浩・容子・吉祥、上杉清秀、上杉美子、白井朗、内田英利子、内山豊美、浦和女声合唱団、江本房利、荒井健次郎、遠藤靖夫、大木まち子、大久保典義、大島辰幸、太田紘一、大塚由美子、岡崎弘子、岡見宏道、小川政子、小澤敏男、小田切豊雄・正子、落合富士也、小野一恵、勝田耕造、加藤徹、加藤秀夫、角賢司、金子啓一、上岡悦子、神谷里子、川井清子、川瀬義一、菊地七郎、北折忠弘、木村孝夫、木村義照、久喜市立久喜東中学校吹奏楽部、鯨井誠、熊谷市卓球連盟会長、熊谷安高、鯉登信義、小金沢憲男、古郡嶽雄、子育て応援隊むぎぐみ、小林治美、小室保尚、小山美恵子、小山裕子、近藤俊子、埼玉県合唱連盟、埼玉県版画家協会、齋藤淑子、酒井國雄、坂下節子、坂本哲也、崎山光一・幸子、桜井省三、佐藤則夫、佐藤祐子、佐藤幸弘、澤田雅夫、澁谷清治・克子、柴田眞樹、島村利雄・清子、志村潤子、下司昭男、東海林英二、白石せつ子、白石道子、菅沼信男、須賀弘、杉浦義春、鈴木孝明、鈴木道明、鈴木良子、関口行雄、関トシ子、関根武、関根登世子、関本千恵子、染野彌生・孝吉、互茂子、高佐屋三郎、高澤正子、高田五郎、高野正夫、高橋英二、高橋俊子、高橋治男、田代和子、田中清子、田中澄子、田林晃、丹野政恵、津田保慶、土屋繁子、坪井和子、寺田英行、戸賀瀬武、富原繁則・利江、友正光、内藤哲、中島

竹雄、中島淑子、永松弘子、中村ムツ子、名越啓史、名古屋悦男、田嶋なみ、ナナッシー、南條憲二、西野優子、西原敏夫、西間木久子、西森幸雄、瀬屋照夫、野村喜美子、橋本喜久雄、羽石史生、馬場幸子、馬場常正、早川悦夫、早川允、飯能ウオーキング倶楽部、飯能新緑ツーデーマーチ実行委員会、引間正・弥恵子、樋口繁晴、平賀恭子、平山秀輔、福来義信、福田利幸、藤井年子、船田藤三郎、古谷吉近、古谷信雄、星野宗弘・伸子、洞口克巳、本間達志、前野澄子、町田金治、町野守、松井政江、松崎賢治、松澤志津恵、松田光、松村松年、松本師子、松盛将三、摩庭俊行、水野三秋、宮嶋祐一、宮本正、麦島正俊、村井善彦、村岡美佐男、村田勇、村田千穂子、村田みき子、村山律子、茂木克己、矢島久夫、安河内功・弘子、矢野佳子、山崎健次、山崎政枝、山田俊二、山田昭次、山本貴、湯田明美、吉田栄吉、吉田喜美子、米元直幸、陸名昇三、和田喜久夫、渡辺茂樹、渡辺利夫

▼千葉県：相上洋子、浅井邦彦、麻薙薫、浅見紘、東國人、天野昌紀、飯田勝子、池田千寿子、池田守、石井従道、石井紀郎、石井正男、石田博道、泉岡和行、今裕之、内田俊介、内田隆子、宇津木章男、浦田義一、宇都宮利善、ASA行徳、A. K.、榎本殖利、榎本奈乎美、薙平桃太郎、大川佐多子、大久保潔、大慈弥豊子、大谷洋平、大土勢子、大野容子、大橋正和、大橋允子、小笠原あみこ、岡田イセ、岡野三郎、岡野駿資・静子、岡部匡克、小川裕、小河原輝子、奥村伊佐夫、小倉希望、尾谷賢、カヴァイオラオコナフラススタジオ、香川史路、勝間田薫、勝美智代、門脇幸親、鎌田隆一、川島敏輝、川島正治、川田雅昭、川原澄子、川原洋子、川又章、岸波弥栄、北原宏・美恵、喜多雅子、木村スミ、西田敦、清宮昌子、熊谷富貴子、黒川澄夫、小池菊平、小池裕武、小泉惇子、小泉孝一、甲田嘉一、桑折勇一、小金沢毅、小島京子、小西義輝、小林一博、小宮山良男、紺世初代、近藤洋一郎、斎藤たかし、斎藤勉、佐々木信代、佐藤章、佐藤梅代、佐貫航大、澤田正之助、椎橋弓、渋江晃一、清水和男、下野千晴、12/15ASAパワークリスマスコンサート、末藤正樹、菅谷文子、菅原好子、杉谷道子、鈴木敬子、鈴木静枝、須田和夫、清古高志・裕子・依子、清藤ヒデ子、全日本シニアアンサンブル連盟全国大会(市川)会場募金、高岡信男、高梨健一郎、高波泰、高野とし子、高野知子、高橋巖、高橋清、高橋照美、高橋靖夫、田口正治、田口久雄、田口泰子、竹内達、竹田文久、竹野恒之、立田文夫、田中恂、田中良治、谷亀さち子、「小さな親切」運動ちばぎん支部、千代田走友会、角田邦子、鶴巻三四子、東葛坐禅クラブ、刀祢館信雄、都丸司、都丸美都子、友成精利、外山芳経、鳥居千恵子、中野好、根津澄子・珠美、野口明子、長谷川寿々子、蜂谷佳子、はっぴい・べっせる関係者一同、濱田明子、林常蔵、林道子、人見幸雄・良、雛形明美、平野鐵三郎・道代、廣瀬忠正、廣瀬和市郎、広田栄次郎、広野清、堀川栄彦、福地美津子、藤田卓男、藤谷玲子、藤田康人、藤原一義、藤原めぐみ、藤原ゆり子、古川喜一郎、堀井志保、堀内國義、堀越幸子、堀越文子、牧野三津子、松坂和子、松澤初樹、松戸いずみ幼稚園、松野久枝、松本美枝、三島隆徳、三石昭、宮下忠司、宮本民雄、務臺佳文・フサ子、武藤弘、村岡百合子、村上保夫、茂木和子、森健時、森下昇、森須恵、森弘、八尋淳一、山内幸夫、山田喜代、大和均、山根和子、山野井憲司、山藤伸子、横田千代子、横田雄峯、吉岡真利子、吉田英一、吉田貴子、吉田勤、芳野宏、力武医院、緑友会

▼東京都：相澤正巳、会田富士恵、アイ・ピー・サプライ、相見一朗・基子・宗郎・高橋雅子、青木恒男・秀子、青木房江、青柳直二、青柳正夫・美智子、我妻多賀子、浅井郁子、浅井猛彦、浅賀登志子、朝日新聞社員有志フェスティバル、朝日新聞東京本社販売局、朝日トップス倶楽部、朝比奈慶子、アサヒメディア、安達雅夫、足立嘉子、阿部光一、天野重夫、安室礼三、雨宮繁子、鮎川泰夫・陽子、鮎澤正信・知枝子、荒井久夫、荒井康博、新木功久、飯田孝一、五十嵐智友を偲ぶ会、五十嵐信日子、五十嵐正巳、井口一男、井口澄子、池亀頼江、池田久美子、池田桂子、池田信三、池田博、池田雅臣、池田康・紀子、石井明美、石川暁子、石川儀市郎、石川純一、石田慶子、石田駿一郎、石原祐子、石母田京子、磯貝博司、板橋第三中学蜂蜜会、市川笑子、市川要男、市川政雄、市川泰子、一乗朋美、市橋幸子、伊藤寛子、伊藤良雄、糸数恭子、稲垣範子、稲村牧子、稲松信雄、井上勲、井上邦洋、井上苑子、猪忠彦、今井康雄、今尾梨津子、今林尚美、今道小枝子、岩上貞子、岩崎明生、岩澤君子、岩田喜代治、岩本高治、上西美智子、上野学園、上野菊枝、上野裕子、上原京子、上原博、鶴川和子、宇佐見清・勝美、薄井信子、内山矩彦、宇都野さきゑ、宇野勝己、梅本益雄、潤間久江、ASA江古田、ASA大泉北部、ASA小竹向原、ASA自由が丘物販購入者一同、ASA常盤台、ASA八王子南口、ASA府中西部、ASA町田木曾、江木正子、榎本明江、榎本淳子、榎本正人、M・F、遠藤イヨ、遠藤五一、遠藤早苗、遠藤朝彦、遠藤フジコ・マリコ、及川敬二郎・了子、大石工次・敦子、大河内悠莉子・義雄・喜代、大越啓次、大澤章、大島尚子、大島光恵、大岡澄子、大竹茂仁・綾子、大竹太上・信子、大谷豊・裕子、大塚隆、大塚真之、大槻正義、大西謙造、大沼正博、大庭勝夫・美智子、大羽富美子、大房順雄、大部智洋、大藪龍子、大和修、岡田和義、岡田肇、小勝竹雄、岡野敬介・輝枝・晃道、岡村悦子、岡村敏、岡村満、岡山和男、沖悦江、奥川弘子、尾崎豊・初代・川辺ヤエ、小澤和男、小田貢司、小野幾代、小野寺玲子、貝原侃子、賣間登志子、影山兼道、鹿児島成恵、笠原英一、笠原房子、風間久子、柏豊三郎、春日直也、片山義裕、勝田洋子、加藤昭、加藤金之助、加藤圭子、加藤忠重、加藤徹郎、加藤直行、加藤久明・貞子、加藤ミチ、加島光浩、加藤幸雄、金井邦夫、金澤恵子、金成英雄、金子明美、金子正二、金子隆夫、金田経男、金田安弘、鎌田昭次、神谷斌、茅根重彦、狩野葉子、川口俊二、川崎厚子、川崎俊子、川島重男、川端章一・百代、河原温、河部寛美、川本敏郎、川本良子、神鳥芳男、菊谷都代子、規矩智信也、菊地まり、岸修、岸啓子、北田和幸、北原正枝・夢実、北原有機夫、北宮満、北村光子、北村満子、北山千恵、杵勝会、木下照子、木村文治、日下部禧代子、楠百合子、功刀正仁、窪田武雄、熊倉学司、蔵方宏昌、倉持泰雄、栗原一郎、黒坂圭太、黒須

誠、小池咲子、小石時江、小泉美英子・佑馬、小島靖、小関裕子、巨勢典子、小平三郎、小谷田桂子、古寺貞夫、後藤紘宇、後藤弘子、小林一正、小林建次、小林誠慎、小林宏、小林優子、小船次子、五味川勝夫、小峰眞紀子、古明地幸勇、菰田稔夫、小柳勝子、小山善生、小山亮一、是恒正達、近藤和恵、近藤京子、近藤麗、今野丹子、紺屋はるみ、齋藤喜美子、齋藤善五郎、齋藤トヨ、齋藤西夫・孝子、齋藤勝弘、坂井昭七、境井敬昌、坂井則幸、酒井典子、阪本まさ子、佐川つきみ、坂和義、桜井浩子、雑喉利祐、佐古浩敏、佐々木胤郎、佐々木端、笹嶋武子、笹本武司、佐竹芳浩、佐藤昭子、佐藤晶子、佐藤一郎、佐藤きぬ江、佐藤静夫、佐藤晴男、佐藤裕久、佐藤睦美、佐藤勇二・和子、佐藤恭夫、澤田稔子、J Xエネルギー労働組合、J Xエネルギー労働組合東京支部、J Xエネルギー労働組合本社支部、塩沢玲子、志田瑛子、実践家政科会、篠田志麻、柴田恵美子、柴田紘子、柴田万都美、芝原克己、J i b e、島井新一郎、島崎芳巳、島田晶好、清水克彦、清水幸子、清水太一、清水勝、清水美佐江、下山静子、白石スミ子、白石みどり、新運転東支部、新生企画、杉之原三廣、杉本淳子、杉山勝、鈴木和一、鈴木朗、鈴木絵理子、鈴木和子、鈴木幸志、鈴木敏行、鈴木宏子、鈴木扶美子、鈴木誠、鈴木雅子、鈴木正子、鈴木正義、鈴木ユリ子、鈴木洋子、鈴木忠行、須田明子、須藤サチ子、須藤二三義、炭田千賀子、諏訪眞司、諏訪直子、精華、聖学院幼稚園、聖学院幼稚園保護者会、仙頭邦子、染谷節雄、染谷理一、大東学園高等学校ものづくり研究所部、高垣益子、高木千代子、高木常年、高木文博、高坂博吾、高崎雅子、高嶋久枝、高谷進、高梨輝雄、高波淳、高橋映子、高橋薫、高橋千枝子、高橋充郎、高橋康正税理士事務所、高橋幸夫、高浜秀雄、多賀正男、高山義夫、滝口泰宏・知子、田口澄子、田口展生、田口日佐夫、武居ユキ子、竹内實昭、竹内佐代子、竹上秋彦、竹中勇、田代田鶴子、橘ダンススクール、田中修、田中喜久子、田中龍一、田辺眼科、谷谷進、谷口一郎、谷尚子、田部美智子、玉蟲裕子、田宮貞和、田村清明、田村宏子、多和田一朗、珍田孜、塚本文子、津久井正美、辻久美子、土田豊・あつ子、土屋翠子、土屋喬雄、角田邦明、角田弘見、鶴来一克、鶴田由紀子、東條正和、東間紘、都甲雄介、飛田満彦、富永聖一、富村憲一、友田重信、友久英孝・美知子、富山珠恵、内藤齊、直井和子、永井正一、中尾健志、中川順子、中川隆生、長倉辰弥、長沢淳、長澤伸和、中澤隆太、永島京子、中條依久雄、中庄谷康弘、中谷徳子、中堤洋治、長友千枝、中西則子、中野英次、永野修、中村斐子、中村忠枝子、中山昇、長山美佐子、名取光広、鍋田裕子、奈良昌一、成澤幸子、成松七子、南晴病院、新美公祥・有美子、西川仁、西島粹子、西野皓三、西野善充、西弘子、西村さち子、新田國夫、新田ミツ子、蜷川明子、沼沢良樹、沼野洋子、根岸愛子、野口都美子、野崎誠、野中通晴・幸子・みな美・柁寿、野間三保子、野本好子・登、萩原敦子、橋中孝枝、橋本圭子、橋本大定、島中彰、波多野干城、羽立賢二、浜田隆、早川信子、早坂實、林敦子、林田和泉、林貞次郎、林本拓也、早野良子、原嶋美雪、原田積善会、原田智美、原環、日朝秀宜、東村貴美、樋口経雄、兵頭圭介、平井紀子、平川恒久、広石よしろう、廣瀬元、広野輝夫・茂子、樋脇隆雄、フォーティナイン有志、福井一彦、福井正行、福岡紀子、福室典夫、藤井裕子、藤田紀久、藤田美江、伏見諭・中村楓、瀧崎勝憲、古河ななよ、古谷富美子、古屋智子、星野富榮、細田美代子、堀井鈴代、堀上禮子、堀さちこ、堀恒子、堀水美津子、本浄寺、本田洋平・由美子、本田渡、本間明生、舞木亮三、眞板幸子、前川信朝、増尾清、増田勝弘、増田利子、増田実・益子・智子、町田重光、松浦裕子、松原雅子、松久公也、松井奈美子、松村敦子、松村百合子、松本シロー・愛子、松本立、松本瑞枝、松山敏子、繭山紀子、丸山千江子、三上訓正、三澤邦夫、水上篤・よし美、水口広子、水越次男、水溜紫乃、水溜幹夫、宮川美知子、宮崎かちこ・亮、宮澤美子、宮田誠志、宮村正廣、巴芳商事、向井昌子、武藤みきこ、村尾静彦、村上恵子、村上慶子、村上美智子、村儀栄一、村野富貴子、目黒進、持田政彦、望月紘一、望月蘭子、森昭徳、森和夫、森國城、森重子、森島賢治、森本敏盛、森本美穂子・真季子、森山邦代、両角晃一、諸寿子、矢島伸治、矢島令子、矢野運・信子、八尋洲東、山内芳男、山縣良之助、山岸康明・純子、山岸悠子、山岸由美子、山口一男、山口照次、山口八千代、山崎澄子、山崎敏光、山下秀光、山下泰子、山田千代子、山田美江、山村隆雄、山本佐代、山本真一、山本睦子、山本雅彦、山脇学園、湯浅重幸、由衛辰寿・若菜、行永小枝子、横山憲子、吉川宏、吉木ひで子、吉澤忠一、吉澤成男、吉澤禮子、吉田昭二、吉田園江、吉田道子、吉森浩子、吉原幸一郎、米川信子、らくださん家、楽天地天然温泉法典の湯、若山麻美、涌島俊計、和角勉、渡邊伎美、渡邊希世子、渡邊秀子、渡邊康子、渡部通英、渡部睦子

▼神奈川県: 曾田秀介、朝日新聞青葉台北部従業員一同、朝日新聞販売、阿部秀雄、阿部誠、アミッド、有馬巖、安藤章子、飯田信子、井口明子、池田良子、石井紀世子、石川和子、石川一彦、石坂重明、石塚彰、石塚香津代、石原治子、石山孝子、磯辺厚子、磯野良三、板倉秀男・和子、伊坪純一、逸見一郎、伊東明美、伊藤郁子、伊藤嘉知子、伊藤登規子、伊藤正孝、伊藤道子、伊藤嘉雄、稲本彰秀、犬塚初江、今井孝一、今村慶子、岩下健三、岩田幸次、岩田佐知子、岩田俊行、岩田文子、上杉寿美子、上田有司・みどり、上原光晴、浮野都伎子、牛山千枝子、歌川和、内海伸子、内田四郎、卯西和子、エイワ(日刊スポーツを通じて)、ASA大船中央、ASA大船南部、ASA鎌倉深沢、ASA北鎌倉、ASA鶴が台・寒川メンバーズ倶楽部、ASA田園田奈店従業員一同、ASA中山、ASA溝ノ口、柄澤チヨ、榎本富子、榎本成己、恵畑欣一、m. m、遠藤雄右、遠藤ゆきと歌仲間、及川サチ、大井スエ・相馬和子、大出徳七、大川治衛、大久保多美子、大倉文雄、大越政子、大島靖夫、大瀬木茂、大関タカ、大滝良雄、太田彝、大槻真司、大貫賢治、大橋幸二、大畑一郎、大庭浩子、大矢妙子、大矢征、大山行徳、岡木隆敏、岡崎伸哉、岡田信子、萩原泰、奥重機、奥寺孝夫、尾崎昭雄、小沢英雄、小田嶋麗子、落合由貴、小野恵子、貝塚薬局、香川萬喜子、笠原一豊、梶谷恵子、春日廣之助、粕谷敬子、瀧永健一、加藤勝久、加藤幸一、加藤清二郎・富子、加藤弘道、角和江、門脇昭子、神奈川県少林寺武道競技連盟、金木マリコ、金子公行、

金子才一郎、金子順一、金子正久、上條泰、神永陽一郎、栢原和子、川上義充、河嶋博子、川島ふさえ、川原一郎、川辺和夫、川村康子、瓦田信彦、カンナマサヒコ、漢那優希・和花・一真、菊地勝男、菊池武、菊池靖子、喜多章、紀田浩雅、北村馨、北村皮膚科、木村明義、木村勇夫、木村一郎、木村貞夫、木村哲三、木村晴信、木村ひな子、桐木正子、日下誠二、草苺誠蔵、久保早苗・美代子、久保田知子、熊谷美代子、熊谷タイ子、久米望、倉見志津江、黒田則男、劇団このは、高口湧太郎・颯太郎、瀨藤蒼洲、光峰陶遊会、工房ぼけぼうし、港北童謡の会、肥田敦美、コスモテック、小谷ハルノ、小林克則、小林清重、小林繁、小林清吉、小柳節子、小室真、近藤正行、近藤勝、斎木和子、齊藤幸子、斎藤隆、齊藤経広、斎藤守弘、彩歩の会、坂井田実、酒井峰男、坂田廣愛、酒見圭子、作間和幸、桜井祐二、櫻林正浩、佐々木光明、佐藤アサエ、佐藤順二、佐藤智恵子、佐藤三千雄、佐原充、座間博、猿田逸夫、澤田叶也、澤野肇、三和看護婦家政婦紹介所、椎谷元二、塩崎隆彦、品川孝昭、篠原勇、篠原福枝、柴田健、渋谷茂・優惠、島和子、清水恵子、清水侃、志村三知子、下島長郎、小路龍彦、新川雅子、新谷ミサヲ、仁保紫郎、菅野喜和、杉江節子、杉本青永、杉本鉄雄、杉山明、鈴木一平、鈴木清一、鈴木秀秋、鈴木光彰、鈴木康子、須田輝雄、陶山浩、関千代子、関ひさ、瀬戸三雄、瀬谷淑子、添田展生、大社貞子、代田治彦、大徳恵美子、高崎修、高崎能範、高崎昌司、高谷喜美子、高野弘子、高橋ちえ子、高橋敏一、高橋博男、高橋博子、高橋博雅・玲子、高橋良治、田川洋宣、竹市義弘、竹内晟・淑江、武田敏、伊達知史、田辺幸子、田中さわこ、田中正男、田中美代子、谷信男、たまなわ新聞、丹羽邦彦、千葉エミ、中後きみ、寺本勝喜、濤崎恭平、東芝セキュリティ川崎、土信田英子、冨田佳志、富永ウタ子、戸村隆子、富山重成、長岡勝美、中川美榮子、中島小梅、中島千恵子、中島善範、中野清、中野泰子、中村貞治、中村俊夫、新原啓、西海博明、西富房江、西野昌男、西村貞次、西村多聞、沼田昭、沼田吉勇・照子、根岸美恵子、野口昌男、野澤美重子・ヒロ子、野沢勇造、野島渉、野津紀美子、能登屋良子、野村健太郎、野本良平、羽島秀光、端山俊男、長谷川公子、長谷川英樹、畑志津子、花澤武、早瀬有里、東野省司、樋上不二子、久留洋、久松良和、菱沼保幸、日野原典子、姫野保雄、平井通宏、平川順治、平川商事、平澤あい子、平田キヨ、平本俊弘、府川仁恵、福田稔子、福原克彦・紀子、福本かほり、富士茅子、藤田和哉、藤田まさみ、藤田守克、藤野芳郎、伏屋芳春・展江、フミコ、A、細山田文樹、本田昌子、前畑章子・京子・ゆかり、前山寿一、間瀬清年、松井義亨、松岡圭子、松川いずみ、松下宏子、松野初枝、松村命、松元英子、松本和枝、松本多子、丸山純一郎、丸山久子、丸山芳宏・素子、三上行枝、三木昭・明美、水谷則子、蓑宮操、宮崎善雄、宮下美也子、宮本宣子、三好明・征子、村上恵子、茂澄明子、望月節子、モナミあざみ野ダンスサークル、百田陽一・紀代、森川恵三、森晃一、守重比路美、保川周治、谷田部英雄、箭野功、山口弘子、山口喜一、山崎絹子、山崎多恵子、山下美智子、山田俊次、山本育子、山本弘・栄子・元、山本芳枝、山本芳朗、由井平和、湯本英二、横井恵美子、横山田鶴子、吉田久美子、吉田武志、吉田照男、米川武夫、米須昭子、脇坂泰則、渡辺逸郎、渡辺克己、渡邊静男・彩子、渡辺静可、渡辺当美、渡辺美紗子、渡辺夕子、和中和子・浩一郎

- ▼新潟県: 石黒正子、ASA新発田、大竹繁、尾野照雄、片桐正隆、金子一光、金子美智子、熊谷主税、黒田喜久二、齊藤陽一、佐藤寿美子・洋子、鈴木重家、圓山邦子、高橋鐵行、田中穂子、寺崎啓一、仲川鉄衛、はやかわ、樋口みつ子、藤田勝、水信ミチ、峯島英太郎、山岸正子、山本宗明・美保子
- ▼富山県: 浅畑道子
- ▼石川県: 木場清子、窪田庸子、高見薫、寺井順一、砺波朱美
- ▼福井県: 垣内泰治・楊石、中村貞義、ふきのとう、福島章
- ▼山梨県: 赤尾和子、大森和男、小野新聞店、川上祐二、工藤啓子、倉澤角三、田中耕太郎、長久保俊晴、藤原静男、堀田幸江、三森あき江、望月正、米澤三江、渡辺国夫・教子
- ▼長野県: 上田腎臓クリニック、ASA松本南部、大橋春武・友子、小川太志、河上恭一郎、熊沢正平、佐藤文雄、塩沢夏江、篠田仁宏、清水栄治、清水もと子、堤よう子、永井和男、中川新聞店、中島君子、波多野妙子、藤巻芳雄、細川彰子、丸山一枝、宮崎則康、宮沢東洋雄、望月正子、師岡恒司、山崎英俊、山下美都子、山瀬敏郎・田鶴子、横地泰英・美智子、吉村百之
- ▼岐阜県: 朝日新聞各務原販売、飯沼清延、大平春子、尾関たみ代、黒田英郎、坂田茂樹、市岐商デパート、正者敬一、杉山博恵、曾我正男、根崎浩郎、野田嘉則、朴英子、長谷川弘、服部弘子・圭子、堀笑子、松本美千代、森圓司、山口利文、山根長利
- ▼静岡県: 愛甲正明、青井玲子、阿形耕三、浅井博、浅川浩慶、石切山六美、石田敏、今村重美子、岩谷三四郎、岩本和雄、上杉孝次、内山さわ子、大嶋正章、大橋完二、金原鏡子、金子妙子、甘露寺、稀代幸雄、木下尊義・富美、小林淳子、小室雅恵、齊藤和子、指出泌尿器科、佐野勉、静岡県高等学校野球連盟、芝田正樹・ミチ、多々良幸子、田中早苗、津田司、手島篤郎、徳留三男、富山文男、中田幸雄、中山学、西方さかゑ、服部浩、久村洋子、晝間登久子、廣瀬壽子、藤田秀子、星野新聞堂、本田正、本田法子、松平紀子、宮永純子、望月詳五・喜美子、望月保宏、矢部香、山下光雄、横山圭子、渡邊政次
- ▼愛知県: 青木茂、青島鍵一、浅野明美、浅野恵津子、浅野哲治、有坂菜恵子、飯田郁美、井澤陽子、伊藤健、稲垣克己、稲垣脩世、井上瑞穂、井野佐登、今井泰生、今村桂三、岩月邦隆、内海紀章、梅田隆司・あいこ、浦野公平、浦野了、大石文恵、大木博、太田宏、大矢揚子、沖叔子、奥山富子、尾嶋喜隆、尾関博、尾野忠雄、掛川五郎、加古善英、笠原みどり、片岡孝雄、勝田富貴男、加藤繁雄、加藤正・真由美、加藤誠・みづ江、加藤誠亮、

加藤夫江、金子典子、金子雅子、加納中学校昭和27年卒業福井学級同窓会、神谷一嘉、川本由美子、木村千秋、木村照子、楠元勲、児玉芳夫、小堀一郎、近藤恵子、斎藤泰二、佐伯憲治、坂井忠夫、坂田成夫、坂野一博、桜井勝、笹淵千紗、佐治満里子、佐藤孝一、佐野義人、澤田創司・みよ、GEC英数教室、篠田豊、柴田紀作、白鳥さつき、菅原光男、杉江朝男、杉本宗孝、杉山僚一、鈴木恒裕、鈴木泰子、須磨千穎、関常男、高木貞夫、高木専治、武田恵、巽重夫、田中清、田中岑明・美智子、田中真砂子、田中八代子、谷口国雄、田村潔、千種教之、中部女流書道会、照井通夫、富田福江、永井盛人、長尾浅吉、中嶋恵子、中嶋静夫、名古屋深雪会、七ツ村繁、南原彩稀子、野田一三、野武二郎、野田隆稔、橋本博孔、服部明、早川七郎、早川常彦・祥子、林恭旨、平田真人、平手勝、平野昭一、深谷攻、藤城郁美、藤田直敏、藤丸勝己、古田明夫・ハツ子、ヘンデル協会、堀田ひさ子、保母志寿子、堀静子、前田豊子、牧田洋子、松尾信子、松崎文雄、松下哲子、松下美重子、松野辰弥、松野剛士、松原利晴、松本直良、三木眞嗣、水谷正英、水谷満子、美濃部素美、村上諒子、村田浩資、村田美佐子、森安千文、森本末男・久代、八事の森、山口徹、山下松志、山田稔・容子、山本明子、山本さき子、吉田勝昭、若宮昭、渡辺静、渡辺剛、渡部宏

▼三重県：家崎郁郎、和泉優・弘子、市川千春、伊藤好一、大友正明、亀井百合子、川上真吾、葛原隆、葛山憲生、下村喜久男、高井勝・梓、竹内宏行、竹村八重美、玉岡輝男、富田清志、中井タミ子、中世古浩子、中村文世、野呂純一、長谷川吉甫、服部勇、藤田雅美、盆栽友人趣味の会、前川昌房、松岡雅子、水谷皓子、水谷久野、保田始、柳瀬恒範、山門久美子、渡辺真知子

▼滋賀県：石井喜代子、石原愛子、井上ミチコ、奥村薫、北村澄子、木村孝次、澤和人、重本ひさの、辻寅建設、西村常昭・英美子、野村喜代子、平野千代子、藤野滋、細見雅彦・千都世、堀良丸、宮崎正彦、宮部喜代茂、山川慶子

▼京都府：朝子紀子、朝日栄太郎、アサワ医院、飯尾千佳、飯尾豊、井内和男、石田妙子、磯野和子、市川高士・きみ子、猪田晃次、上阪喜久子、上野昭英、上羽トメヨ、ASA向日市、大谷光真、岡崎芳弘、岡林豊利、折井英子、角浦節子、北川みき子、北川光夫・恵美子、國重宏、久保雄蔵、小出耕資、小牧貫治、小山猛、笹井喜美子、佐藤紀之、澤田茂夫、島本実、鈴木正澄・育代・喜代・朋子・みどり、須藤朝代、高石照子、滝川祥子、滝川正、武内秀夫、竹中陽子、竹家和子、塚本安子、徳田一男、戸田斉子、鳥居幸雄、中川冴子、中川雅弘、中島睦美、中村善治、南波悠紀子、西村軍平、蜷川茂、信田尚志、野村明子、橋本勝彌、橋屋秀夫、長谷川きくゑ、畑一、福井紀美子・美香、福田博幸、古山季子、升山春彦、三間寛次・俊代、メスプコーポレーション、持田一郎、森ひろ子、山岸康男、山下育子、山田健一、山田文諒、吉田勇、吉原征子、若林香代子、渡辺深雪

▼大阪府：青田玲子、秋田仁士、秋山俊和、朝見堅二、朝本憲、芦田達夫、阿達美智子、尼崎久栄、荒川房江、荒木康雄、新船公江、新船満江、荒元忠彦、有馬仁美、安伸信子、井口理、池川清子、池田清、池田稔、池田美代子、池畑孝子、石城戸博子、石田昭勝、石田章、石田美禰子、石塚浩子、石橋義明、泉原ちさと、泉原昭三、磯波孝英、板井清光、市川善博、出原弘之、伊藤京子、伊東英明・文子、稲向絹子、井上晴太郎、井上マツ子、井上義夫、井林昇治、指宿仁孝、今川沙陽子、今瀬すゑ子、今西敏子、今村明美、今村早智子、今村守、今村泰昭、植木幹男、植坂美穂子、上田明・すみ子、上田輝雄、上田紀和、上田優、植野敏子、上羽福太郎、上村弘、上村洋子、宇野成一、生形和重、梅本修公、浦西美智子、占部邦彦、ASA天満、衛藤房子、江幡淳子、大阪シティ信用金庫、大阪美術倶楽部、大阪府レクリエーション協会（朝日民踊大会）、大阪深雪会、太田隆男・絹子、大浪和彦、大塚伸二、大塚民子、大槻博司、大槻正江、大野俊彦、大橋たづ子、大矢明子、岡田福子、岡本健治、岡本起夫、岡本幸男、小川富士子、小河文治、奥尾光佑、奥野哲哉・美耶子、お食事処彦ちゃん、織田皓一、小野美智子、小畑強、小原明、小原利博、恩地ヨシ子、加川和代、梶村チエ子、片岡由規子、片上清雄、片山哲子、金沢慎、金子喜昭、金藤喜恵子、上岡諭、上須喜久治、狩野貴子、川口六郎、川昇治、河野末子、河野通明、神原洋子、紀伊克昌、北丘会、北尾繁信、貴多孝之、北之坊皓司、喜田光郎、木田稔、木下雅司、木村宏治、木村輝代、京谷慶二郎、切通良昭、桐生賀子、木路衛子、近鉄タクシー、日下敦子、楠本政子、久保田健一、熊田昌夫、久門佑子、倉林幹彦、栗本透、暮部久、黒田悟、桑原諄治・ひろ子、月輪寺（正月チャリティー売上金から）、戀中雄司、甲田英行、後藤和彦、琴谷敏治、莫正継、小林一雄、小林たね子、小林ファミリー、小林裕子、小林幸弘、小松正雄、小峰聖子、小山利明、小山敏子、小山博信、金銅幸夫、斎木幸治、齋信繁珍、佐内ツマ子、阪上義雄、阪田新聞舗新年会余興余剰金、阪部元重、坂本悟、迫田文則、佐々木行雄、佐治覚之、佐藤登志枝、佐藤友彦、佐藤益子、佐藤嘉昭、鮫島俊治、澤野洋二・好恵、サンディ、山東啓作、山東利一、塩路恵美子、塩谷浩之、七野佳子、柴田千代枝、柴田三男、嶋倉宏、島田榮一、島武宗和、島津順子、島野その子、島恵、清水純子、清水政太郎、正野サチ子、人生道場、杉浦幸弘、杉本房枝、鈴木サヨ子、須藤高明、諏訪百々子、星翔高等学校生徒会、總田賢治・純次・剛志、大同生命厚生事業団、鯛谷龍雄、高浦良市、高田和世、高野和浩、高橋絹江、高橋徹、高橋誠、高橋良子、高室雅子、瀧麻貴子、田口鐵男、田久保滯子、多田征治、田中重樹・敦子、田中誠一、田中知重子、田中暢子、田中勝美、田中八重子、田中葦子、谷井尚子、田野ヒサ子、田端ひろ子、田原カツ子、田淵哲・多恵子、玉井正光、玉田美智子、段野邦夫、丹羽明夫、千ヶ崎幸子、茶野智春、調枝潮、千綿繁満、辻外科リハビリテーション病院、辻本常雄、堤裕、津野泰子、出水泰男・明子・睦子、寺中正義、天正安治、百日鬼主計、陶山陽子、遠山奈美子、徳永信子、戸崎数雄、友田重信、友近綾子、豊島健二、豊嶋淳一、豊永哲子、内藤季夫、苗田茂乃、長岡洋子、中上佳昌、中川英子、仲川真紀、中塩路和生・古谷高明、中島忠男、中島チエ子、中島正典、永田勇、中田順造・美佐子、長田浩子、中田義仁、中西洋子、中西正明、中野勲、中村一郎、中屋敷清、長山宏、梨山春

夫、那須明継、並河晶子、名村正勝、成瀬スミ子、西内スミエ、西浦貴美子、西尾俊子、西川キヨ、西口澄子、西田加代子・岩本春美、西田善治・恭子・紗代、西田成廣、西田義幸、西仲茂、西村富士代、西村友紀子、西山加代子、西山武志、西山富造、沼谷律子、野口廣太郎、野口美智子、野水二三代、萩原克己、萩原友江、橋爪喜久子、橋本美知子、八田千津子、服部浩子、林昭男、林篤子、林敦子、林郁、林淑子、原宏、日置雄毅、樋口佳子、比志島国裕、日野泉哉、日埜由紀子・雄貴、平岡京子、平松純子、平山純之、ファミリーマート新北野一丁目店、福井康次・初音、福井とみ子、福井弘子、福島猛志、福山章紀、藤井喜美子、富士松至彦、古川種一、別所淳子、細井昭宏、細江宏子、細川治尋、細川浩敬、細川美紀、本田学、前田隆雄、前田龍夫、前田ひろみ、前田至弘、前波美栄、真砂信三、増田成子、増田武司、松井一子、松井富子、松岡朝生、松尾亮一、松川栄治、松下ゆり、松田生雄、松田喜美子、松田敏子、松村良二、松本欣子、松本捨吉、松本忠能、松元雅之、馬野明子、丸井英子、水谷泰子、水谷玲子、溝畑伸子、三谷節子、三田村憲夫、満井末吉、南洋子、箕面自由学園学園まつり実行委員会、三村晃、三村義一郎、宮宇地宗則、宮木暁子、三宅義夫、宮崎弘、宮崎由美、宮原壽江、宮前忠夫、宮本徹、ミョウケン生コンクリート、村野敬治郎、室徹、森栄明子、森昭、森快三、森川育子、森口博子、森尻眞琴、森田千寿、森永肇子、森野千鶴子、森本恵子、森山眞理子、諸富信子・清人、八木和栄、八木黎子、八下中14期生、安岡邦昭、八束浩一、矢野清美、山岸健三、山口厚美・牧子、山口貴士、山崎幸子、山崎達彦、山下岩雄、山下進一、山下寿子、山田栄子、山田佳子、山田啓子、山田幸子、大和梱包、山中守、山根巖、山本輝子、湯浅郁子、湯浅博美、行尾嘉孝、芳井輝子、吉田悦三・強美、吉田淳子、吉田正、吉田・宗川・上田、義積通子、吉永由美子、吉村孝嗣、米田雄蔵、Y. M. 和田綾子、渡邊朱美、渡辺綱男、渡辺ノブコ、渡辺雅美

▼兵庫県：相川英子、浅岡芳司、朝日新聞社旧調査部OB会、朝日新聞名谷販売所、阿部淑子、尼崎花のまち委員会武庫南地区、飴谷和孝、新妻義輔、飯尾道夫、飯田規子、飯塚信男、池田和歌子、石井日出夫、石田光代、一隅運動極楽寺支部、伊藤閑子、井上壽子、岩崎晋策、上村嘉夫、牛尾俊江、宇田公美、梅田啓人、梅原隆治、永川恭子、ASA神戸なだ、奥羽徳行、大江良一、大田隆三、大西英子、大西正信、岡本いさ子、尾崎久枝、落合弘・弥生、柿並美代子、笠原千義、上山巖、上山和子、上山健悟、上山智也、川上信男・廣子、河内一三、川端二四雄、河村慶子、河村美智子、木村武弘、楠井和子、黒住真吾、K. N. 小梅喜久子、古河崎隆夫、小倉初博、小林敦子、混声合唱団「遊」創立30周年記念演奏会での会場募金、蔡東青、斉藤博、坂口幸男・澄子、阪本洋子、崎ダイ、佐藤幸子、佐藤安孝、佐野喜洋子、佐野隆二郎、重内皋月、重松貞夫、柴田睦子、島田和子、清水勤、城玲子、真生園有志、菅村和弘、菅原美年子、杉本力、鈴木敏男、鈴木暢子、蟬川勝己、袋布健二郎、高田節子、高田フサ子、高村英子、高山新吉、竹内竹司、田中幸雄、谷政敏、筑瀬重喜、千葉明子、津田宏司、津田雅子、手塚晴彦、寺田秀子・宏貴、寺本躬久、富島祥二、歳森暢子、年森博幸・ひさ枝、戸田英子、友野眞澄、友廣忠夫、外山清登、外山妙子、内藤睦、長池良枝、長井恒、中垣勲、長瀬秀雄、永田敏一、中野一彦、中野多可子、中原康弘、中村年延、中原征人、南馬武二、西岡浩人・千徳・知奈美、西田豊子、西野壽一、根塚仁子、野村妙、HARVEY PAULA. S.、橋本幸太郎、橋本壽明、長谷川喜、畑尾雅子、畑剛、畑秀子、花井彩、阪神機設工業、阪神タイガース鳥谷敬、東俊二、久野聡子、久野誉典、久野壬豊、平井由美、廣辻逸郎、福西秀信、藤岡賢子、藤木克尚、藤本洋敏・陽子、藤原肇、藤原晴夫、佛立寺婦人会、踏分英志、踏分清美、坊淳、宝朝会、細見佳壽子、堀洋子、待田順治、松葉郁子、松本茂、松山春子、水嶋幸江、水谷修子、水谷英記、御簾納勝利、水本雅子、湊美恵子、宮木利典、宮本孝行、宮本美智子、村居哲、桃原久枝、森井智代、森川昌長、八木実、安江和子、山崎敏明、山田保、山田優子、山根忠、山本侃二、油谷卓雄、吉田かほり、吉田軍治、吉田修一、吉田テイ、Y. M. 脇坂正之

▼奈良県：赤澤慶文、池田登美子、井上琢智・美晶、井本実千代、上野邦一、大西和子、岡田慶隆、萩原千鶴江、川畑宗一、川本俊治、木村佐喜夫、木本千津子、河野博道、小林弘、坂口眞利子、浄土宗崇徳寺檀信徒有志一同、平恵子、竹森洋子、東大寺、中江作郎、中西章、中之瀬文代、二木伸生、西塔輝男、野々宮昭夫、野村進、野村淑子、本田佐智子、松居良、松本憲一、村尾美恵子、村田稔治、村田敏文、山岡秀一、山田眞・米子、吉村賀史

▼和歌山県：青松会職員一同、有元一陽、一瀬建幸、市原孝、インコおじさん南出、上野増雄、宇田森婦人会、ASA打田、大岡忠夫、尾形八重子、貝川好延、笠松通、久世哲央、げんごろうクラブ、佐藤裕美、高畑勝、竹中信夫、東谷好子、平田敬二、馬淵義也、山本一郎、吉田賢治・三希子、吉本勲治、吉盛幸雄・宏子

▼鳥取県：足立仁、石田隆子、白井宗雄、組藤弑郎、中井勲、葉狩忠信、松本智恵子、山崎郁雄、吉村芳枝、米原章喜

▼島根県：池本輝久、板垣秀美、山根武・愛子

▼岡山県：明石年正、今井眞澄、大森マサ子、岡本栄二、金平洋子、金光義弘、神山敏雄、亀田怜子、神崎栄蔵、木村俊夫、草下伸介、黒川和子、黒飛史朗、坂村緋呂子、酒本登美子、白井智久、杉本英子、高橋辰雄、谷村昌枝、徳山孝義、中村裕子、原田格二・雄一、日向美恵子、古山和子、星野謙蔵、松本英明、三浦和子、村上宏治、吉田豊久

▼広島県：天野弘士、石井美智子、石田泰正、板谷鉄弥、稲井はつ枝、井上年光、岡庭桂子、折田薫三、片桐悦子、木村隆男、光円寺、合田弘子、佐藤昭雄、佐藤嘉展、支那そば処たんぼぼ、高下芙美江、田中明子、田中健夫、中島澄夫、中谷正弘・勢津子、中浜姫代美、中村帛江、中村耕也、中村好江、浜田春之、東三千年、平野恭子、福井ヨウ子、福岡晃、藤井成行・照子、藤原紀男、正岡義己、村上益夫、矢上睦子、矢野清、山手万知子、吉田暢夫、渡辺恵子

- ▼山口県：赤川悦夫、朝日新聞下関販売、有久善道・操枝、板垣一寛、伊藤医院、井本芳宣、江見寛樹、大島喜代子、織田哲至、片岡逸、河田信也、河村茂延、河本眞龍、神田正美、神徳内科医院、古賀明友、末次清・百合子、隅田茂生、染井利英、高松恵美子、武居稔博、田島佳子、田中茂子、中山富蔵、並川宏、原田巖・初称、広重清子、深本良一、藤本裙子、堀田尚、松崎浩司、松本美枝子、湊カツ子・典子、宮原和生、宮本俊明、宮本甫子、明林寺、山岡邦雄・恵美子、山根惇、山本春夫、吉見ラジオ体操おはよう会、吉村礼子、渡邊おでみ
- ▼徳島県：阿部啓三、泉公允、M. S. S. 生徒有志、田上泰子、手束昭胤、原田寛子、松島誉重、三宅信子
- ▼香川県：市原晴徳、上杉石松、岡久美子、岡田信也、岡本江伊子、川田清彌、渋谷和彦、高谷修三、寺山和彦・文子、長谷川君子
- ▼愛媛県：合田治二、石井禮一、井手栄子、越智睦美、笠原正直、河井典子、河野チエ子、木下誠一、久保光雄、近藤幸雄、末光和子、高津久美子、砥部焼陶芸館・中村昭光館長（チャリティー陶芸市の収益金）、新留和香子、久長信二、藤高雅子、松井完治、向井由利子
- ▼高知県：大庭三四郎・朋子、尾崎善博、竹崎勝海、依光弘絵
- ▼福岡県：青山整形外科医院、秋成府左治、朝日新聞海老津販売店、朝日新聞大手門店、朝日新聞橋本販売、朝日新聞福岡販売、朝日メディアテック、有田和徳・雅子、有馬護宏、安西義孝、安藤正幸、飯塚聖母幼稚園、ボランティアの店OASC、碓嘉子、池田暁彦・加寿子、池田知光、池野忠幸、石橋大海、伊東直子、犬童令子、井上明人・みどり、井上敦子、井上静子、井上徹雄、井上美代子、井上祐毅・麻衣子・直哉、今村寿和、今本久美子・文徳、岩田光雄、植田朋子、内山健治、梅田勇、ASA引野、江藤多喜男、扇谷範可、大塚保人・明子、大西克己、大西純一、大野クミ子、大野憲一、大村公人、岡島孝行・十三子、緒方覚、小方和子、小川カツヨ、奥野豊、奥平成男、小倉弘孝、尾尻義博、OZUMIクリニック、小原運輸、小原秀俊、小原ビル、小山田秀子、柿添富久子、風師山早朝登山会、笠間文子、梶務、春日雅樹、加藤修一、鴨川隆彦、荻田ロータリークラブ一同、川関富美子、川原祥治・幸子、川村勝自、川元忠男、河原畑義尚、城戸英治、城戸千代子、木戸美沙、木下京子、木下景子、木村賢示、木村幸隆、九州吹奏楽連盟、「九州まるごと特区」会場募金、工藤五六、熊本五年、蔵永知彦、倉本恵美子、栗山徳太郎、桑原純、桑原俊治・しのぶ、恵祐会、小石純也、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂公千、小嶋房江、小島康彦、小林強、小宮路勝、金光教若松教会ニコニコバザー、西生寺護持会、齊藤忠志、齊藤由加、坂本嘉之、佐久間紘一・充子、佐々木愛子、佐々木清、佐々木満雄、茶道裏千家淡交会北九州支部、佐藤武美、佐藤保子、實藤正利・さかゑ、佐保肇、椎野千代子、塩野玲子、篠崎典子、柴田真理子、島初美、清水久枝、秋栄電機一同、周望社交ダンスOB会、十連病院、城島伸介、白石徹、白濱洋子、田尾美智代、高嶋康年、高田奈津江、竹中久、田川勇、多川洋子、竹中千、田代勝世、立部孫義、田中印刷所、田中大二、田中時雄、田中均、谷口正純、谷崎眞行、玉川純二、田村龍夫・末子、長治良知、ツジ胃腸科医院、恒富誠、坪井商店、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、都島メグミ、戸田三七生、富岡春子、友井滋、取違芳弘、永井朋子、中川一能、中島乃婦子、中島与志行、中野勇、中村進一、中村房子、成重博美・まり子、新名恵子、西田野乃、西日本カラオケ連合、西牟田奈々、西村寛、野上智宏、野口貢、野崎恵美子、橋爪淳二、馬場武、林俊明、原田礼子、日朝高晴、樋口紫、日高高枝、姫路秀明、平井信廣、弘中将隆、福井義雄、福岡国税局一同、福岡吹奏楽連盟、福岡聖恵病院、福永逸雄、福満三郎、福吉三代子・未紀子、藤崎良之、藤田雅之、藤巻隆男、藤山清郷、藤由会、藤好三千代、藤原東、淵上鯉一、古川和則、古庄三喜男、古野千枝子、古野治子、前田奉一郎、前田稔、前田宗徳、松井昭子、松井和弘、松岡順之介、松澤克政、松下徹、松下美智恵、松延歯科医院、松本寛美、丸野了、丸山隆志、水ノ江正・シゲ子、溝口義晴、溝部忠増、光富恭子、光安孝夫、光安内科医院、宮本産商、向笠洋三、牟田芳子、村上啓子、村上歯科医院スタッフ一同、村上葉子・靖子、村田純治、目原清嗣、メンバーズ椿、森純夫、森靖子、森脇巖、師井義清、矢嶋和樹、安中康子、安村茂男、山家内科医院、山口博道、山下幸子、山下新一郎、山田久美・富美子、山田初子、山本清子、山本賢輔、山本哲夫、油絵屋大哲、行橋クリニック、横手一雄、吉永正人・郁子、嘉村起美子、米倉医院、依里博、林成寺、栢淵義光、和多瀬邦枝、和田康彦
- ▼佐賀県：草野正雄、杉原茂樹、鶴元清己、橋本純一、西村正紘、林田隆雄、Y・T
- ▼長崎県：赤木輝子、石高晃司、後田敏子、大川一明、川口房子、川尻忠、平美智子、田川海南子、田中慎一、俵町浜野病院、野口内科こども医院、福田外科病院、福田詢、桃下真由美、百田眞瑛彦、森豊子
- ▼熊本県：上杉隆樹、子ども支援キルト会、佐藤堯、鈴木一臣、田中忠夫、樽海友希、中村医院、姫戸医院、淵上敏夫、松田斉・鈴子、宮田和子、宮田圭子
- ▼大分県：石橋弘行、岩下正利、大分合同新聞三重清川プレスセンター、加茂順子、斉藤誠治、佐藤トシ子、友弘清文、野上和恵、三河正彦、山崎福男
- ▼宮崎県：赤池義昭、石田信康、井上清美、河津哲夫、高森拓夫、前田淳、松蘭博史、矢野光子
- ▼鹿児島県：阿久根亨、木村龍一郎・理、久木田康、蔵屋一枝、迫田久二、田原睦郎、福山茂雄、古別府隆治、細山田良輝、牧田京子、袴廣洲、山内正恵、吉井恵子、脇本病院
- ▼沖縄県：仲村宏春

中期計画2020 ～新しい福祉のカタチをめざして～

はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017年4月に本格施行された改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね2020年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の3本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると思います。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その用途を明確にしました。さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

1. 事業団の社会的使命

① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組みでは対応

私たちの使命

先駆的に取り組んできた歴史をふまえて未来を見すえ、地域と人を育み、支援の輪をつなぎ、お互いに支え合いたれもが安心して暮らせる社会をつくる

しきれない、介護者（ケアラー）の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

②職員モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

活動モットー

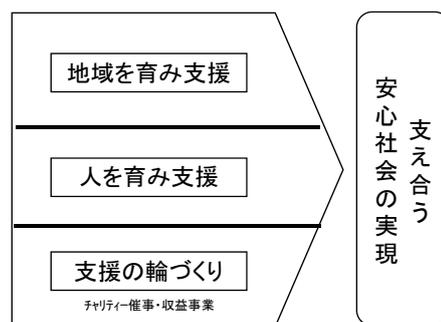
- ・時代に必要とされる仕事をめざす
- ・社会的な視点を意識する
- ・新たな課題の発見に努める
- ・スピード感をもって仕事にあたる
- ・効果、効率を追求する
- ・質の高い仕事をめざす
- ・常に仕事を刷新する
- ・持続可能な形をめざす
- ・当事者を尊重する
- ・支援者、寄付者の視点を尊重する

2. 事業展開

①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切に、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。



②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。

3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるようつとめます。



また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。

②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約70パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約30パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組みます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化しています。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」の4つに分けて設定します。さらに、それぞれ

に該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1. 児童福祉振興基金 (含む山岡基金) 7億2千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金。	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2. 地域福祉振興基金 4億4千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設応援助成
3. 福祉人材育成 啓発交流基金 2億7千5百万円	次代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうピジット
4. 東日本大震災 地域支援基金 3億793万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のあたる家 ・被災地訪問プログラム

②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われます。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考慮しておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNSの社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしています。SNSの影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね2020年までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに対応するために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカタチをつくっていけるよう、努力してまいります。

朝日福祉ガイド DVD・本のご案内

◆朝日福祉ガイドDVD◆

※価格は税込み。別途梱包送料がかかります。7巻まで510円（8巻以上は800円）

<p>『自閉症の人が求める支援』 ～よくわかる自立のためのアイデア～ 全3巻セット価格 10,692円 各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した画期的なDVDです。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。</p>
<p>『自閉症の人が見ている世界』 ～自閉症の人を正しく理解する～ 全3巻セット価格 10,692円 各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点です。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの評価 生活スキル編』 全4巻セット価格 18,144円 各巻 4,860円</p>	<p>自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの自立課題』 全3巻セット価格 13,608円 各巻 4,860円</p>	<p>「自分ができる」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。</p>
<p>TEACCHプログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症教育 各巻3,024円</p>	
<p>『自閉症児の明日のために －TEACCHのねらいと考え方－』</p>	<p>プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。</p>
<p>『親のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。</p>
<p>『教師のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。</p>
<p>『青年期・成人期のTEACCHプログラム』</p>	<p>学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。</p>

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクス、電子メール (guide@asahi-welfare.or.jp)
で下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、お名前、電話番号を明記してください)

ホームページ (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

◆朝日福祉ガイドブック◆

※価格はいずれも税込み。別途梱包送料がかかります。

1冊180円、2-3冊250円、4-5冊300円（6冊以上はお問い合わせ下さい）

『生き方、逝き方 ガイドブック』

1,296円

どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちだったこの命題を新田國夫医師とともに考え、整理しました。



『自閉症のひとたちへの 援助システム』

540円

TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。



『なるほど高次脳機能障害』

1,296円

高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。



『100%あたらくん』

648円

自閉症のあたらくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子供と、その家族の日常が理解できます。



『みんなのうつ』

1,080円

うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。



『くるまいす-第3改訂版』

324円

車いすの種類や構造、介助の基本的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。



『認知症とともに』

1,080円

認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。



『新・川崎病がわかる本 改訂増補版』

540円

乳幼児を中心に発病する原因不明の「川崎病」について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。



『自閉症の人たちを支援する ということ』

864円

TEACCHプログラムの最高責任者、ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。



朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

社会福祉に先駆的な役割 90周年迎える

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診察券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。



第二次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や医療品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃墟の中での明るい話題は、49年9月にインドのネル首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。



52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な社会福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子

146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。



高度経済成長と共に事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の



自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」(86年に「朝日福祉助成金」に統合)を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH(ティーチ)プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIIPPON」を開催しています。同時に学習障害児(LD)の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生(大学生)の手話によるスピーチコンテスト」は84年にスタートしました。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る

運動を展開、障害のある現地の人が車いすを制作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、18年には創立90周年を迎えました。新聞社の福祉事業として、常に社会の変化やニーズを先取りし、社会意識を高めるための取り組みを続けています。

朝日新聞厚生文化事業団の新しいロゴができました

このロゴは、朝日の頭文字である「A」をモチーフにしています。私たちの「社会を支える、社会に寄り添う、社会と共に生きていく」という思いが込められています。

「A」の始まりとなる部分に、強く支えるイメージを込めた筆跡をつくることによって、大きな社会を支えていく事業団の様子を表現しています。

また、社会の多くの人々が「共に生き、共に支え合ってほしい」という思いや、それぞれの人が持つ「相手を思いやる豊かで優しい気持ち」を、背景の楕円が重なり合うグラデーションをつかって表しています。



2017年度 事業活動計算書より抜粋

(2017年4月1日～2018年3月31日)

単位:円

サービス活動収益	309,119,721	サービス活動費用	464,043,576
事業収益	99,647,288	事業費用	218,782,923
児童福祉事業	5,464,268	児童福祉事業	66,374,559
障害者福祉サービス等事業	10,894,112	障害者福祉サービス等事業	27,925,266
老人福祉事業	1,010,654	老人福祉事業	60,950,239
チャリティー事業	75,544,620	チャリティー事業	58,402,062
医療と公衆衛生	2,924,250	医療と公衆衛生	801,454
朝日福祉ガイド(DVD他)	4,809,384	福祉啓発推進	1,807,040
		朝日福祉ガイド(DVD他)	2,522,303
経常経費寄附金収益	209,472,433		
		人件費	193,136,754
		事務費	50,786,497
		減価償却費	1,332,350
		徴収不能額	5,052
サービス活動外収益	2,556,799	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	2,556,799		
		経常増減差額	△152,367,056
合計	311,676,520	合計	311,676,520

詳細は、当事業団のホームページをご覧ください。

理事・監事・評議員名簿

2018年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 6人 監事2人 評議員 7人) 敬称略・順不同

理事長	飯田 真也	朝日新聞社相談役
業務執行理事	大井屋健治	朝日新聞厚生文化事業団業務執行理事
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
同	早瀬 昇	認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
監事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会理事兼執行役員
評議員	石川 到覚	大正大学名誉教授
同	佐藤 佳則	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
同	大谷 泰夫	社会福祉法人日本保育協会理事長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社長
同	鈴木 健	朝日新聞社CSR推進部企画委員

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

■大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1
TEL092(477)6930 FAX092(477)6931

■名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

- 郵便振替 「寄付専用」郵便振替用紙をお使い下さい。お手元がない場合は、当事業団が払込料金を負担する振替用紙をご請求ください。または、口座番号「00130・1・9166」（加入者名＝朝日新聞厚生文化事業団、通信欄に「寄付」、領収書不要の場合もそのように明記）までご送金下さい。
- 銀行振り込みやクレジットカードによるご寄付も可能です。事業団ホームページから手続きができます。
- 現金受付 朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口（平日午前10時～午後5時30分）や朝日新聞の各総局など。

※寄付金控除について 当事業団へのご寄付は個人の場合、所得控除と税額控除の二つの寄付金控除のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め事業団へお問い合わせ下さい。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2018年3月31日現在）

■本部（東京）

事務局長 是永一好
事業部長 野崎貴士
管理担当部長 大羽淳一
広報担当部長 河田有子
落合すが子
北村美樹
小倉玲子
古屋厚子
富岡信幸
鳥海大督
中村宣人
藤田祐子
松岡百合
宮前賢

■大阪事務所

西日本事業部長兼大阪事務所長 山本雅彦
西日本事業担当部長 中村茂高
上野平真美絵
勝見文子
福本昌宏
古市真弓

■西部事務所

事務所長 上原啓
専門委員（西部在勤）
福田年之

■名古屋事務所

事務所長 田中彰

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2017

平成29年度

事業
報告

ホームページ・facebookで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

<https://www.facebook.com/asahiwelfare/>

2017年度 事業報告

2017年4月 1日から

2018年3月31日まで

 朝日新聞厚生文化事業団